

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 1 Course of career Design 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	医療系学生としての目標の設定、日々の過ごし方、また医療人としての心構えや、社会に向けての心構え意識付け、一流の選手の考え方や行いを、座学やセッションを通して学ぶ。
到達目標	医療系学生として、どこに出しても恥ずかしくないレベル、かつ卒業後社会人として即活躍できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	その日の授業を、帰宅後の振り返りやワークで不完全な部分を完成させる。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	(授業内) 筆記試験 100%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		メンタル導入部	考え方やメンタルの重要性に気づき、今後の授業に役立てる。
2		目的、目標セット	個人の目的、目標を明確にし、日常生活のあり方に役立てる。
3		メンタルブレイン トレーニング 1	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
4		メンタルブレイン トレーニング 2	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
5		栄養学からみる 内臓の仕組み	栄養学からその栄養がどのように体に使われているのかを知ること、内臓の仕組みなどに興味を持ち学ぶことができるようになる。
6		勉強の仕方 1	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。
7		勉強の仕方 2	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。
8		経営の為の知識	独立開業に当たってのお金と経営に関して、その関係性と意味を学び、経営には何が必要かを説明できる。
9		柔道整復師の仕事 について	自分がなろうとしている、柔道整復師とはどんな仕事をするのかを画像を踏まえながら創造し、自分がなりたい柔道整復師像を具体的に説明できる。
10		スポーツエンタメ トレーナー 1	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーとはどんな仕事をするのかを説明できる
11		スポーツエンタメ トレーナー 2	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる
12		高齢者からみる柔 道整復師の役割	高齢者の特徴を学び、柔道整復師がどのように関わるべきかを説明できる。
13		筋力トレーニング から見る解剖	筋力トレーニングに必要な筋肉の起始停止を学び実践できる。
14		筆記試験	今までの学びを振り返ることで半期の自分の成長を知ることができる。
15		マナーとなぜ仕事 をするのか？	筆記試験の振り返りとともに、社会人としてのマナーの必要性和、なぜ仕事をするのかについて考え半期の授業の気づきの集大成とする。

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 2 Course of career Design 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	オンデマンド	時 限	オンデマンド

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。
到達目標	身体の全身を筋肉を把握し、慰安目的の手技療法が出来るようになる

準備学習 時間外学習	学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。
使用教材	副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい
留意点 備 考	

成績評価	実技テスト１００％
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーリング	この授業で行われる授業の理念、内容及び評価の仕方を説明できる
2		勉強についての	技術と知識の重要性とやり方について説明できる
3		手技療法について	手技療法の授業の進め方、学び方、基礎を学び説明できる
4		手技療法基礎 軽擦	手技療法の基礎を学び、軽擦が出来る
5		ハムストリングへのアプローチ	ハムストリングに対して、手掌による圧迫法を用いて施術が出来る。また、ハムストリングの解剖学を学ぶ。
6		下腿へのアプローチ	脛脛に対して、拇指圧迫法、揉捏法、伸展法を用いて施術ができる。また、脛脛に対しての解剖学を学ぶ。
7		足裏へのアプローチ	足裏に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術ができる。また、足全般に対しての解剖学を学ぶ。
8		今までの復習	人を入れ替えて、今まで学んできた手技を施し評価しあう。数人の体を触ることで、同じ部位でも人によってさまざまな違いがあることに気付く。
9		腸脛靱帯へのアプローチ	腸脛靱帯に対して、手掌強擦法を用いて施術ができる。また、腸脛靱帯等に対しての解剖学を学ぶ。
10		殿筋へのアプローチ	殿筋（大殿筋、中殿筋、梨状筋）に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて用いて施術ができる。。また、殿筋群に対しての解剖学を学ぶ。
11		腰へのアプローチ	腰部に対して、拇指圧迫法を用いて出来る様になる。また、腰部に対しての解剖学を学ぶ。
12		自分たちで評価	前期に学んできた手技療法を生徒同士で行いあい評価し合う。その時、金額も決めて自分たちの学んできたことに、実際社会で得られる評価を試みる。
13		前期復習及び実技試験準備	前期学んできたことの復習と、実技試験への準備を行う
14		実技試験	面談方式による実技試験
15		振り返り	前期の実技試験の反省点と向上点の洗い出し

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学総論（骨折について）を学ぶ。
到達目標	骨折の総論部分を人に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の教科書を読み込んでおく。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	小テストを1回実施する。【期末試験70%、小テスト10%、平常点20%】
------	--------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		人体に加わる力	柔道整復師への到達目標（オリエンテーション）を行い各自設定させる。 人体に加わる力について説明することができる。
2		損傷時に加わる力	損傷時に加わる力について説明することができるようになる。
3		骨の形態と機能	骨の形態と機能について説明することができるようになる。
4		骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明することができるようになる。
5		骨折の分類	骨折の分類について説明することができるようになる。
6		骨折の症状	骨折の症状について説明することができるようになる。
7		骨折の合併症	骨折の合併症（併発症・続発症・後遺症）について説明することができるようになる。
8		小児骨折	小児骨折の特徴について説明することができるようになる。
9		高齢者骨折	高齢者骨折の特徴について説明することができるようになる。
10		小テスト	前回までの範囲の理解度を確認し、不足知識の認識を行う。
11		骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明することができるようになる。
12		骨折の予後	骨折の予後について説明することができるようになる。
13		骨折の治癒に影響 を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子を説明することができるようになる。
14		全範囲の復習	全範囲の理解度を確認し、試験に向けた対策を行う。
15		試験解説	骨折総論で知っておくべき知識の再確認、ポイントを説明することができるようになる。

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復師の業務範囲を理解し、治療法を実践できるようにする。患者の指導管理・外傷予防を身につける。
到達目標	柔道整復師としての治療法を知り各処置での注意点を理解する。 また、怪我を未然に防ぐための活動について理解し、説明することができる。

準備学習 時間外学習	学んだあと、プリントで復習する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	配布プリントをしっかりと復習すること

成績評価	筆記試験 80% / 平常点 20%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の沿革	沿革と業務範囲の理解し説明できる。
2		診察 1	診察時の注意点・病歴の聴取ができる。
3		診察 2	身体診察の流れ・診療録の記載ができるようになる
4		骨折の整復法 1	徒手整復時の配慮・非観血的整復の要点を理解し説明できる。
5		骨折の整復法 2	整復の一般的原則、屈曲整復・牽引勅圧法の理解し説明できる。
6		脱臼の整復法 1	脱臼の整復法・非観血整復の要点を理解し説明できる。
7		脱臼の整復法 2	整復の一般的原則、整復法の理解し説明できる。
8		軟部組織損傷の 初期処置	RICE処置法の理解し説明できる。
9		固定法	固定施行時の注意、固定後の配慮を理解し説明できる。
10		手技療法	手技療法の基本型を理解し説明できる。
11		手技療法の実際	手技療法を実際試して理解し説明できる。
12		運動療法	運動療法の基本型の理解
13		指導管理	患者の環境・スポーツ活動に対する指導管理が理解し説明できる。
14		外傷予防 1	身体の基礎的状態の評価を理解し説明できる。
15		外傷予防 2	特異的予防について理解し説明できる。

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1		前期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。 軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）、解剖学教科書
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 80% / 平常点 20%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		関節の構造と機能 1	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
2		関節の構造と機能 2	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
3		関節の構造と機能 3	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
4		脱臼 1	脱臼の定義、各種分類を理解し説明できるようになる。
5		脱臼 2	脱臼の定義、各種分類を理解し説明できるようになる。
6		脱臼 3	脱臼の定義、各種分類を理解し説明できるようになる。
7		脱臼 4	脱臼の各種分類、症状を理解し説明できるようになる。
8		脱臼 5	脱臼の各種分類、症状を理解し説明できるようになる。
9		脱臼 6	脱臼の合併症を理解し説明できるようになる。
10		脱臼 7	脱臼の合併症を理解し説明できるようになる。
11		脱臼 8	脱臼の整復障害を理解し説明できるようになる。
12		脱臼 9	脱臼の整復障害を理解し説明できるようになる。
13		脱臼 10	脱臼の経過と予後を理解し説明できるようになる。
14		脱臼 11	脱臼の経過と予後を理解し説明できるようになる。
15		試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する。

科目名 【英】	柔整総論 4 General Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1		前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。 軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）、解剖学教科書
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 80% / 平常点 20%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		関節構成組織の損傷 1	靱帯損傷について理解し、説明することができるようになる。
2		関節構成組織の損傷 2	靱帯損傷について理解し、説明することができるようになる。
3		関節構成組織の損傷 3	関節損傷の分類について理解し、説明することができるようになる。
4		関節構成組織の損傷 4	関節損傷の分類について理解し、説明することができるようになる。
5		関節構成組織の損傷 5	靱帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。
6		関節構成組織の損傷 6	靱帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。
7		関節構成組織の損傷 7	関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。
8		関節構成組織の損傷 8	関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。
9		関節構成組織の損傷 9	関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。
10		筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
11		筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
12		筋の損傷 3	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
13		筋の損傷 4	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
14		筋の損傷 5	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
15		試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する。

科目名 【英】	柔整基礎講座			必修/選択	必修	授業形式	講義
	Course of Basic Judo Therapy			総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	柔道整復師にとって必要な解剖学(神経と感覚器)の基礎を学ぶ
到達目標	ヒトを動かすメカニズムの一旦を担う神経に興味を持ち、構造を説明することができる。

準備学習 時間外学習	教科書を読む
使用教材	南江堂（解剖学）資料ノート
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 80% / 平常点 20%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーション	ヒトの身体の仕組みを知り、勉学に対する更なる意識付けを行う。
2		神経①	神経系とは？との概論に説明することが出来る。
3		神経②	神経細胞について説明することが出来る。
4		神経③	神経にまつわる解剖学用語について触れる。脊髄構造を説明出来るようになる。
5		神経④	脳幹構造について説明出来るようになる。
6		神経⑤	間脳構造について説明出来るようになる。
7		神経⑥	大脳構造について説明出来るようになる。
8		神経⑦	頸神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
9		神経⑧	腕神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
10		神経⑨	腰神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
11		神経⑩	仙骨神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
12		神経⑪	自律神経系について説明できるようになる。
13		感覚器①	視覚器構造について説明できるようになる。
14		感覚器②	聴覚器構造について説明できるようになる。
15		まとめ	前期の総復習を行い、相手に説明するプレゼンテーション

科目名 【英】	基礎包帯固定学 1 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	岩崎英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 アルミ副子、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	実技試験 80% / 平常点 20%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		導入	実技ガイダンス 包帯の巻取り、包帯学を学び、説明できるようになる。
2		指の包帯 1	隻指帯、全指帯が巻けるようになる。
3		指の包帯 2	中指、環指に全指帯あ巻けるようになる。
4		指の包帯 3	指頭包か帯が巻けるようになる。
5		固定具	プライトンにて副子作成の基本的な使用方法、注意点を習得する。
6		指の包帯 4	母指上行麦穂帯が巻けるようになる。
7		指の包帯 5	復習（これまでの包帯法を思い出し、名称を言われただけで目的の包帯法を行うことができる）
8		評価	中間評価、緊張感を持った状態で患者に巻くことができるレベルに近づけることができる。
9		手関節の包帯 1	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。（右患肢）
10		手関節の包帯 2	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。（左患肢）
11		手関節の包帯 3	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。（左患肢）前腕の包帯の巻き方を知る。
12		前腕の包帯	前腕の包帯が巻けるようになる。
13		総復習	隻指帯、全指帯、指頭包か帯
14		総復習	母指上行麦穂帯、手関節上行麦穂帯、前腕の包帯
15		まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。

科目名 【英】	柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	5
担当教員	小田垣 典行		実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事する。 現在に至る。			
学習内容	骨の基本的構造、骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。						
到達目標	骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し蝕知することができるレベルに到達し、後期の筋の理解に役立つようにする。						
準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。						
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末筆記試験 8 0 % / 小テスト 2 0 %（授業毎に次回に小テストを実施）						

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		骨 1	総論（骨の役割・形状・表面に関する用語） 上肢骨の構成 長骨・短骨など違いを理解し、鎖骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
2		骨 2	総論（骨の構造・成長） 各論（肩甲骨） 骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
3		骨 3	器官系統 各論（鎖骨 上腕骨） 鎖骨・上腕骨の名称を知り体表からの触知できるようになる。
4		骨 4	各論（橈骨・尺骨・手の骨） 橈骨・尺骨・手の骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
5		骨 5	各論（手根骨 寛骨） 手根骨の名称と位置関係を知り体表から触知ができ、寛骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
6		骨 6	各論（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・足の骨） 大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・足の骨の名称の理解と体表から触知できるようになる。
7		骨 7	各論（足根骨 胸骨 肋骨） 胸骨・肋骨（真肋と仮肋と浮遊肋の違い）の名称の理解と体表から触知でき、足根骨の位置を説明できるようになる。
8		骨 8	各論（椎骨の基本的構造・頸椎・頸椎の特異型・胸椎） 椎骨の基本形・頸椎の構造の理解し説明できるようになる。
9		骨 9・関節 1	各論（腰椎・仙骨・骨盤・上肢の関節） 腰椎・仙骨の構造や骨盤を構成する骨や境界線を理解し説明できるようになる。上肢の関節の名称とそれに付属する靱帯・関節の動き知り説明できるようになる。
10		関節 2	各論（上肢・下肢の関節） 上・下肢の関節の名称とそれに付属する靱帯・関節の動き知り説明できるようになる。
11		関節 3	各論（下肢の関節・頭蓋骨の分類・後頭骨） 下肢の関節の名称とそれに付属する靱帯・関節の動き知り説明できるようになる。 頭蓋骨を分類し、後頭骨の名称を理解し説明できるようになる。
12		骨 10	各論（側頭骨・下顎骨・頭蓋骨の残り） 側頭骨・下顎骨の名称を理解し説明できるようになる。頭蓋骨の名称や眼窩を構成する骨や泉門を理解し説明できるようになる。
13		骨 11・関節 4	各論（脊柱の連結・胸郭の連結） 脊柱と頭蓋の名称や胸郭付属する靱帯や関節の動きを理解し説明できるようになる。
14		関節 5 体表解剖	各論（体表解剖P275～280） 前期の復習 体表から骨の隆起、突起等を触知できるようになる。
15		テスト解説・筋	テスト解説 骨格筋の総論：起始・停止・動きの理解し説明できるようになる。

科目名 【英】	柔整生理 A Physiology of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002～2010大学病院、公立病院に勤務、2010～開業
------	------	-------	-------------------------------

学習内容	神経、筋を中心に生理学を学ぶ。動物機能を基礎から学び、運動生理学の理解へつなげる。
到達目標	国家試験の生理学分野の知識を習得する。解剖学、病理学、運動学、一般臨床医学をはじめとした他の科目の学修にあたり、必要な基礎知識を習得する。

準備学習 時間外学習	教科書、配布プリント、及びノートの予習復習を欠かさないこと
使用教材	教科書「生理学 第4版」（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋の生理 1	オリエンテーション、骨格筋の構造について説明ができる。
2		筋の生理 2	骨格筋の収縮と弛緩について説明ができる。
3		筋の生理 3	骨格筋と張力、筋電図について説明ができる。
4		筋の生理 4	心筋と平滑筋について説明ができる。
5		神経の生理 1	ニューロン、静止膜電位、活動電位について説明ができる。
6		神経の生理 2	活動電位の伝導、シナプスについて説明ができる。
7		神経の生理 3	神経伝達物質、神経系の構成について説明ができる。
8		神経の生理 4	脳の構造、大脳皮質について説明ができる。
9		神経の生理 5	高次機能（睡眠、覚醒、脳波）について説明ができる。
10		神経の生理 6	自律神経の分類、分布について説明ができる。
11		神経の生理 7	自律神経の構成について説明ができる。
12		神経の生理 8	運動に関係する中枢神経について説明ができる。
13		神経の生理 9	運動神経と運動単位について説明ができる。
14		復習	前期のまとめ
15		試験解説	前期試験解説、振り返り

科目名 【英】	フィジカルエクササイズ講座 Course of Physical Exercise Skill			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1年	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	6
担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務				
学習内容	筋肉トレーニングを通じて運動器の仕組みや構造・機能を学び、NSPA-CPT取得を目的とする。 また健康な身体作りに関わる栄養や歩行・寝具などについても幅広く学ぶ						
到達目標	NSPA-CPT資格を取得し、国家試験への自信付けを行う。また健康な身体作りに対し造詣を深め ること で身体の構造や機能に興味を持つ						
準備学習 時間外学習							
使用教材	NSPA教本、プリント資料						
留意点 備 考							
成績評価	実技試験１００％						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーション	授業の流れ・この授業で学ぶこと
2		lesson1	トレーニング理論を学ぶ。NSPAでの考え方、トレーニング方法の理解を深める。
3		lesson2	トレーニング理論を学ぶ。NSPAでの考え方、トレーニング方法の理解を深める。
4		lesson3	マシンを利用したトレーニング方法について学ぶ（上肢1）
5		lesson4	マシンを利用したトレーニング方法について学ぶ（上肢2）
6		lesson5	マシンを利用したトレーニング方法について学ぶ（下肢1）
7		lesson6	マシンを利用したトレーニング方法について学ぶ（下肢2）
8		lesson7	マニュアルレジスタンスについて学ぶ（上肢）
9		lesson8	マニュアルレジスタンスについて学ぶ（下肢）
10		lesson9	総復習（ペアを変えて実技）
11		lesson10	NSPA-CPT検定
12		歩行動作 1	歩行分析を元に適切なインソールや靴の選び方を学ぶ
13		歩行動作 2	歩行分析を元に適切なインソールや靴の選び方を学ぶ
14		寝具 1	睡眠と健康について学ぶ
15		寝具 2	睡眠と健康について学ぶ

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	外傷に関する解剖およびメカニズムから骨折と脱臼について学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編no教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末筆記試験 80% / 平常点 20%
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肩関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 肩関節の構造を理解し、分類や症状について説明できる。	
2	肩関節脱臼 2	【前方脱臼の実技】 前方脱臼の整復法や固定法を知り、反復性脱臼に移行しやすい理由を説明できる。	
3	肩関節脱臼 3	【前方脱臼以外】 後方、下方、上方脱臼の特徴について説明ができる。	
4	肩関節部の軟損 1	【筋、腱の損傷】 腱板損傷について説明ができる。	
5	肩関節部の軟損 2	【筋、腱の損傷】 上腕二頭筋長頭腱損傷について説明ができる。	
6	肩関節部の軟損 3	【スポーツ損傷 1】 ベネット損傷、SLAP損傷について説明ができる。	
7	肩関節部の軟損 4	【スポーツ損傷 2】 肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩について説明ができる。	
8	肩関節部の軟損 5	【不安定症】 ルーズショルダーについて説明ができる。	
9	肩関節部の軟損 6	【末梢神経障害】 肩甲上神経と腋窩神経の構造と絞扼障害について説明ができる。	
10	肩関節部の軟損 7	【その他の肩軟損】 五十肩について説明ができる。	
11	小テスト	肩関節脱臼、肩関節部軟損について理解を深める。	
12	肘関節脱臼 1	【解剖、概説、後方脱臼】 後方脱臼の発生機序について説明ができる。	
13	肘関節脱臼 2	【前方脱臼、側方脱臼、肘内障】 成人と小児の肘の構造の違いを理解し、肘内障について説明ができる。	
14	総復習	問題演習	
15	試験解説	試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 2 Clinical Judo Therapy Basic 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末筆記試験 80% / 平常点 20%
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーション	授業の進め方、学習要綱、学習ポイントの説明
2		頭蓋骨骨折	頭蓋骨骨折の各骨折の症状などの特徴について説明できる。
3		頭蓋骨骨折・顔面骨骨折	頭蓋底、顔面部骨折について説明できる
4		頸椎骨折	頸椎骨折（ジェファーソン、椎体破裂、スコップ作業者等）について説明できる。
5		胸椎骨折	胸椎骨折（椎体、突起部）について説明できる。
6		腰椎骨折	腰椎骨折（圧迫、肋骨突起）について説明できる。
7		腰椎骨折	腰椎骨折（チャンス骨折等）について説明できる。
8		顎関節脱臼	顎関節脱臼について（前方脱臼）説明できる
9		顎関節脱臼	顎関節脱臼について（後方脱臼・側方脱臼）について説明できる
10		脊椎脱臼	頸椎脱臼について説明できる。
11		脊椎脱臼	胸椎・腰椎脱臼について説明できる
12		頸部の軟部組織損傷	鞭打ち損傷について説明できる
13		頸部の軟部組織損傷	その他の疾患（寝違え、胸郭出口症候群など）や注意すべき疾患について説明できる。
14		総復習	問題演習
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 3 Clinical Judo Therapy Basic 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復学各論を骨盤骨折、大腿骨骨折を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の復習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編第7版）・配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 80% / 平常点 20%
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		腱の損傷 1	腱の構造と機能・腱の補助装置・腱損傷の概説
2		腱の損傷 2	腱損傷の程度による分類・腱損傷部位による分類・腱損傷の治癒機序
3		神経損傷 1	神経損傷の分類・外力の働き方による分類
4		神経損傷 2・骨盤骨折 1	末梢神経損傷の症状・末梢神経損傷の治癒機序・骨盤の機能解剖
5		骨盤骨折 2	骨盤骨折の分類・概説・治療法
6		骨盤骨折 3	骨盤輪骨折・合併症治療法
7		大腿骨近位端部骨折 1	大腿骨骨頭部骨折の概説・大腿骨頸部骨折の概説、症状
8		大腿骨近位端部骨折 2	大腿骨頸部骨折の治療法、パウエル・ガーデンの分類・治癒困難な理由
9		大腿骨近位端部骨折 3	大腿骨頸部骨折の合併症・大腿骨転子部骨折・大転子単独骨折・小転子単独骨折
10		大腿骨骨幹部骨折 1	大腿骨骨幹部骨折の概説・発生機序
11		大腿骨骨幹部骨折 2	大腿骨骨幹部骨折の分類、症状、治療法、合併症
12		大腿骨遠位端部骨折 1	大腿骨遠位端部骨折の分類、大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端腺離開
13		大腿骨遠位端部骨折 2	大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部の裂離骨折
14		総復習	問題演習
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 4 Clinical Judo Therapy Basic 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	6
担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。				
学習内容	外傷に関する解剖およびメカニズムから骨折と脱臼について学ぶ。						
到達目標	臨床現場でよく遭遇する骨折、脱臼について理解し、説明できるようになる。						
準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。						
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂）、配布プリント						
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編no教科書を持参して受講することが望ましい。						
成績評価	期末筆記試験 80% / 平常点 20%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		鎖骨解剖	鎖骨の骨名称について説明できるようになる。
2		鎖骨解剖	鎖骨に付着する軟部組織について説明できるようになる。
3		鎖骨機能解剖	鎖骨の運動機能について説明できるようになる。
4		鎖骨骨折	鎖骨骨折の概説と発生機序について説明できるようになる。
5		鎖骨骨折	鎖骨骨折の症状、合併症、後遺症について説明できるようになる。
6		鎖骨骨折	鎖骨骨折の整復法について説明できるようになる。
7		鎖骨骨折	鎖骨骨折の固定法について説明できるようになる。
8		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の概説と発生機序について説明できるようになる。
9		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の症状、合併症、後遺症について説明できるようになる。
10		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の整復法について説明できるようになる。
11		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の固定法について説明できるようになる。
12		胸鎖関節脱臼	胸鎖関節脱臼の概説と分類を説明できるようになる。
13		胸鎖関節脱臼	胸鎖関節脱臼の症状および固定法、予後について説明できるようになる。
14		復習	指導管理
15		後期まとめ	鎖骨の役割を振り返り、再度メカニズムを考える。

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 5 Clinical Judo Therapy Basic 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末筆記試験 80% / 平常点 20%
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーショ ン	柔道整復学を学ぶ意義について 授業の目的を答えられる
2		肩甲骨骨折	肩甲骨骨折について説明できる
3		肋骨骨折	肋骨骨折の分類・発生機序・症状について説明できる
4		肋骨骨折	肋骨骨折の合併症等について説明できる
5		肋骨骨折	肋骨骨折の治療について説明できる
6		肋骨骨折	肋骨骨折（総論）について説明できる
7		胸骨骨折	胸骨骨折（分類・発生）について説明できる
8		胸骨骨折	胸骨骨折（症状・治療）について説明できる
9		胸肋関節損傷	胸肋関節損傷について説明できる
10		胸・背部の軟部組織損傷	肋間筋損傷、打撲について説明できる
11		背部の軟部組織損傷	背部の軟部組織損傷について説明できる
12		腰部の軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる
13		腰部の軟部組織損傷	腰痛について説明できる
14		総復習	後期全体の復習・質問
15		試験解説	解説・復習 後期内容を振り返り、ポイントを説明できる

科目名 【英】	物理療法学 Physical Therapy Equipment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	物理療法機器の原理、使用方法、効果、禁忌について学ぶ。
到達目標	物理療法機器の原理、作用などを学び、診療に役立てることができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	柔道整復学理論編、プリント配布
留意点 備 考	50分授業

成績評価	期末筆記試験 80% / 平常点 20%
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		安全対策	インフォームドコンセント、禁忌について理解する。
2		電気療法 1	概要、電気刺激の 3 要素について理解し、説明できるようになる。
3		電気療法 2	低周波電気刺激療法について理解し説明できるようになる。
4		電気療法 3	TENS、低周波電気刺激療法、中周波電気療法の効果、禁忌について理解し説明できるようになる。
5		温熱療法 1	電動熱療法（ホットパック療法）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
6		温熱療法 2	パラフィン浴療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
7		温熱療法 3	輻射熱療法（赤外線療法）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
8		温熱療法 4	変換熱療法（マイクロ波）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
9		温熱療法 5	超音波療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
10		光線療法	光線療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
11		寒冷療法 1	概要、伝導冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
12		寒冷療法 2	対流冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
13		牽引療法	頸椎介達牽引の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
14		その他	間欠的圧迫法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
15		試験解説	試験の振り返り・復習

科目名 【英】	基礎包帯固定学 2 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	岩崎英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 三角巾、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	実技試験 80% / 平常点 20%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		三角巾	三角巾で提肘できるようになる。
2		肘の包帯	肘関節集合亀甲帯が巻けるようになる。
3		副子作成 1	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。
4		副子作成 2	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。
5		枕子作成	各種骨折、脱臼の固定に必要な枕子を綿花、ガーゼで作成する。
6		肩の包帯 1	肩関節上行麦穂帯の巻き方を知る。
7		肩の包帯 2	肩関節上行麦穂帯が巻けるようになる。
8		肩の包帯 3	肩関節下行麦穂帯が巻けるようになる。
9		樹脂副子 1	プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。
10		樹脂副子 2	プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。
11		特殊包帯法 1	デゾー包帯第 1 帯、第 2 帯
12		特殊包帯法 2	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯
13		特殊包帯法 3	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯
14		総復習	三角巾、肘関節離開・集合亀甲帯、肩関節上行麦穂帯の復習練習を行う。
15		まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	45	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5. 6. 7

担当教員	山田 靖典 / 岩本 暁美	実務者経験	(山田) 2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務 (岩本) 2007年5月～2010年6月 接骨院に所属
------	---------------	-------	---

学習内容	主要関節の評価を行う (SFMA Selective Functional Movement Assessment) 物理療法機器を体験することで患者の気持ちを理解し、効果と禁忌について理解する。
到達目標	関節の機能不全について明確に原因を導き出す。そのために運動器 (筋肉) の知識が必要であると理解する。 患者に物理療法の適応と禁忌を説明し実施することができる。

準備学習 時間外学習	筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。
使用教材	プリント資料
留意点 備 考	毎回筋肉の小テスト実施

成績評価	筆記試験 80% / 平常点 20%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】				
1		臨床実習について	臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たす	90分
2		SFMAについて	SFMA (評価法) の目的・ルールを覚える。	90分
3		頸椎評価法	頸椎の評価を知る。	90分
4		頸椎評価法	頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
5		頸椎治療法	頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
6		肩評価法	肩関節の評価を知る	90分
7		肩評価法	肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
8		肩治療法	肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
9		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作評価を知る	90分
10		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
11		多分節屈曲治療法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
12		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作評価を知る	90分
13		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
14		多分節伸展治療法	体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
15		筋肉テスト	筋肉名を問いかけ起始停止を答える。作用は自分で動作を行う	90分
16		臨床実習の心得	臨床実習とは何か、柔道整復師の治療法・後療法・物理療法の定義、分類について理解する。	

17		電気療法 1	低周波療法を体験し効果を理解する。
18		電気療法 2	S S P 療法を体験し効果を理解する。
19		電気療法 3	干渉波療法を体験し効果を理解する。
20		電気療法 4	EMS、マイクロカレントを体験し効果を理解する。
21		温熱療法 1	伝導熱療法（湿性ホットパック、乾性ホットパック）を体験し効果を理解する。
22		温熱療法 2	輻射熱療法（赤外線療法）を体験し効果を理解する。
23		温熱療法 3	変換熱療法（マイクロ波療法）を体験し効果を理解する。
24		温熱療法 4	伝導熱療法（パラフィン浴療法）を体験し効果を理解する。
25		温熱療法 5	変換熱療法（超音波療法）を体験し効果を理解する。
26		寒冷療法	伝導冷却療法（アイスパック）、気化冷却法（コールドスプレー）を体験し効果を理解する。
27		牽引療法 1	腰部牽引を体験し効果を理解する。
28		牽引療法 2	頸部牽引を体験し効果を理解する。
29		光線療法	レーザー光線療法を体験し効果を理解する。
30		間欠的圧迫法	メドマーを体験し効果を理解する。

科目名 【英】	柔整解剖 B Anatomy of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	本田 珠美	実務者経験	2022年4月から付属接骨院にて勤務
------	-------	-------	--------------------

学習内容	筋の名称、起始、停止、支配神経、作用と生体観測と生体計測を学ぶ。
到達目標	筋の名称、起始、停止、支配神経を覚え、体表からその位置を理解することによって、筋の作用（動き）を理解する。

準備学習 時間外学習	前時間の復習と前期に行った骨の各部の名称の復習を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 70% / 筆記確認テスト 10% / 平常点 20%
------	------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋 1	上肢帯の筋 上肢帯の筋の起始・停止・支配神経を知り、作用を説明できる。
2		筋 2	上腕の筋 前腕の屈筋 上腕の筋や前腕の屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
3		筋 3	前腕の屈筋・伸筋 前腕の屈筋・伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また手根管を通過するものを説明できる。
4		筋 4	前腕の伸筋 前腕の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また伸筋支帯の6つのトンネルを理解し、通過するものを説明できる。
5		筋 5	手の筋 内寛骨筋 手の筋や内寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
6		筋 6	下肢帯の筋（外寛骨筋） 外寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また筋裂孔、血管裂孔、梨状筋上孔・下孔を理解し、通過するものを説明できる。
7		筋 7	大腿の屈筋・伸筋・内転筋 大腿の屈筋・伸筋・内転筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またハムストリングスを説明できる。
8		筋 8	大腿の内転筋 下腿の伸筋 大腿の内転筋や下腿の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またスカルパ三角・鷲足を説明できる。
9		筋 9	下腿の屈筋・腓骨筋 顔面筋 下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
10		筋 10	足の筋 咀嚼筋 浅頸筋 舌骨上・下筋 深頸筋 咀嚼筋や浅頸筋や舌骨上・下筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
11		筋 11	深頸筋 胸部の筋 深頸筋、胸部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。
12		筋 12	胸部の筋 腹部の筋 胸部の筋、腹部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。また横隔膜の孔を通過するものを説明できる。
13		筋 13	浅・深背筋 頭蓋底 頸部の三角 浅・深背筋の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。頭蓋底の孔に通る血管・神経や頸部の三角を説明できる
14		筋 14・骨	体表解剖P280～296 体表から筋・血管を触知、確認できる。神経の圧痛点を確認できる。
15		テスト解説 まとめ	テスト解説 一年間のまとめ。

科目名 【英】	柔整生理 B Physiology of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002年6月～2010年3月大学病院、公立病院に所属、2010年4月以降自身が代表するクリニックで歯科医師として診療に従事。
------	------	-------	---

学習内容	医療従事者として相応しい生理学の知識、思考能力を獲得する。
到達目標	人体の機能を理解することで、生理学のみならず、他の臨床系科目等も理解できるようになる。また医療従事者として必要な知識を身につけることができる。

準備学習 時間外学習	授業で学んだことは復習する。プリント、ノートだけではなく、該当する範囲の教科書も熟読すること。
使用教材	教科書「生理学 第4版」（南江堂）
留意点 備 考	解剖学の関連部分も教科書等でチェックしておくこと

成績評価	筆記試験 80% / 平常点 20%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋①	骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて説明できる。
2		筋②	興奮収縮連関について説明できる。
3		筋③	筋と張力、長さの関係について説明できる。
4		筋④	平滑筋、心筋について説明できる。
5		感覚①	感覚の分類について説明できる。
6		感覚②	一般感覚の種類、内容について説明できる。
7		感覚③	嗅覚、味覚について説明できる。
8		感覚④	目の生理学的機能、視覚について説明できる。
9		感覚⑤	聴覚、前庭感覚について説明できる。
10		生殖①	発生学的観点から、生殖系について説明できる。
11		生殖②	男性生殖器とその機能について説明できる。
12		生殖③	女性生殖器とその機能について説明できる。
13		骨①	骨の構造と成長について説明できる。
14		骨②	カルシウム代謝と内分泌、ビタミンとの関係について説明できる。
15		試験返却	試験返却【後期で学んだ全範囲】 筋、感覚を中心とした生理学について説明できる。

科目名 【英】	基礎医学講座 Course of Basic Medicine			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	本田 珠美	実務者経験	2022年4月から付属接骨院にて勤務
------	-------	-------	--------------------

学習内容	骨模型を使用し骨の各部位を立体的に知り、骨の特徴を理解する。 骨に付着する筋肉の起始停止を知り、理解する。
到達目標	模型の観察を通じて、骨の部位名称・左右・筋肉の起始停止を説明できるようになり、骨折や脱臼の転位・ 整復の理解をしやすくなるようにする。

準備学習 時間外学習	解剖学の教科書を確認しておく。
使用教材	配布プリント、骨模型
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実習の期末試験 70% / 確認筆記試験 10% / 平常点 20%
------	------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		導入教育・骨総論	この科目が今後に対して重要であることを周知してもらう。 骨の特徴を触れて部位事の特徴を知る。 部位名称の特徴を説明できる。
2		上肢帯	鎖骨・肩甲骨について学習しポイントの理解を深める。
3		上肢帯	鎖骨・肩甲骨について学習しポイントの理解を深める。
4		自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。
5		自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。
6		確認試験①	上肢骨の確認試験を行い知識の定着を図る。
7		下肢帯	寛骨について学習しポイントの理解を深める。
8		下肢帯	寛骨について学習しポイントの理解を深める。
9		自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。
10		自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。
11		確認試験②	下肢骨の確認試験を行い知識の定着を図る。
12		上肢の筋	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する。
13		下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する。
14		総復習	履修した内容について再度確認を行う
15		試験解説	前期末試験の解説

科目名 【英】	運動学 Kinesiology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5
担当教員	角田 晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施				
学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。						
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解できる。	
2	運動学 2	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解できる。	
3	運動学 3	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解できる。	
4	運動学 4	四肢と体幹の運動 1【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解できる。	
5	運動学 5	四肢と体幹の運動 2【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解できる。	
6	運動学 6	四肢と体幹の運動 3【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解できる。	
7	運動学 7	四肢と体幹の運動 4【股関節】 股関節の構造・機能について理解できる。	
8	運動学 8	四肢と体幹の運動 5【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解できる。	
9	運動学 9	四肢と体幹の運動 6【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解できる。	
10	運動学 10	四肢と体幹の運動 7【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。	
11	運動学 11	四肢と体幹の運動 8【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。	
12	運動学 12	姿勢 基本的な立位姿勢について理解できる。	
13	運動学 13	歩行 歩行についての基本的な事項を理解できる。	
14	運動学 14	運動発達 運動発達について理解できる。	
15	運動学 15	運動学習 運動学習の方法・過程について理解できる。	

科目名 【英】	整形外科学 Orthopedic Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	骨・関節・筋・靱帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科学を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器の基礎知識②	筋 靱帯 腱 の基礎知識、運動器の科学 の 理解 と 習得	
2	整形外科診察法②	跛行 拘縮・強直 知覚 反射 の 理解 と 習得	
3	整形外科検査法②	電気生理学的検査・関節鏡検査・超音波検査の診方 の 理解 と 習得	
4	整形外科的治療法②	観血的治療 の 意味 と 意義 と 方法 の 理解 と 習得	
5	骨・関節損傷総論②	小児骨折・開放骨折・疲労骨折・病的骨折 の 診断・治療 の 理解 と 習得	
6	スポーツ整形外科総論	スポーツ整形外科 の 役割 と 位置づけ の 理解 と 習得	
7	感染性疾患②	ブロディー骨膿瘍・骨関節結核・化膿性関節炎 の 理解 と 習得	
8	骨および軟部腫瘍②	良性骨腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
9	変形性関節症	変形性関節症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
10	結晶誘発性関節炎	結晶誘発性関節炎の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
11	血清反応陰性脊椎関節症	血清反応陰性脊椎関節症の 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
12	骨粗鬆症②	骨粗鬆症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
13	先天性の骨・軟骨疾患②	軟骨無形成性症・モルキオ病・骨形成不全症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
14	骨端症①	骨端症の総論・ペルテス病・オスグッド病・ブランツ病の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
15	四肢循環障害	末梢動脈・静脈疾患の 病態 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	

科目名 【英】	臨床柔整学応用各論 1 Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の各論、定型的転位、応用固定学、臨床を学ぶ。
到達目標	上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第6版
留意点 備 考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の臨床と介護予防	柔道整復師の臨床、医接連携、介護予防通所介護の機能訓練士の業務が理解できるようになる。
2		上腕骨近位端部骨折	上腕骨骨頭部骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後、肩関節の構造と機能などが説明できる。
3		上腕骨近位端部骨折	上腕骨解剖頸骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後などが説明できる。
4		上腕骨近位端部骨折	上腕骨外科頸骨折の発生機序、症状、鑑別診断などが説明できる。
5		上腕骨近位端部骨折	上腕骨外科頸骨折の固定法、骨癒合、後療法、予後などが説明できる。
6		上腕骨近位端部骨折	上腕骨大結節、小結節単独骨折、近位骨端線離開の発生機序、整復、固定法、合併症が理解できるようになる。
7		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、骨片転位理解ができるようになる。
8		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の整復法、固定法、後遺症、骨癒合、予後が理解できるようになる。
9		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の特徴、発生機序、分類、骨折線、骨片転位が理解できるようになる。
10		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の症状、受診時の注意事項、X線による評価が理解できるようになる。
11		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の整復、固定、後療法、Fat pad sign、肘関節後方脱臼との鑑別が理解できるようになる。
12		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の後遺症、フォルクマン拘縮、骨化性筋炎が理解できるようになる。
13		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨外顆骨折の特徴、発生機序、骨折線と骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。
14		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨内側上顆骨折の特徴、発生機序、骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。
15		試験解答	前期筆記試験解答と解説

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 2 Clinical Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3, 4

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2024年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術に必要な下肢の外傷や障害を学ぶ。また、臨床推論を構築するための統合的知識を学ぶ。柔道整復師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学・運動学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%・小テスト3%で評価する。
------	-------------------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーション 下腿骨近位端部骨折 1	評価基準・講義に関する略号・小テスト。前回の復習。下腿骨近位端部【下腿骨近位端部の解剖・アライメント・分類】下腿骨近位端部の構造・骨折分類の説明ができる
2		下腿骨近位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折】顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折について説明ができる
3		下腿骨近位端部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【腓骨頭単独骨折・Segond骨折】・下腿骨幹部骨折。腓骨頭単独骨折・Segond骨折・下腿骨骨幹部骨折の発生機序について説明ができる
4		下腿骨骨幹部骨折 1	小テスト。前回の復習。脛骨骨幹部【脛骨単独&脛腓両骨骨折の転位・症状・治療法・後遺症】脛骨単独&脛腓両骨骨折について説明ができる
5		下腿骨骨幹部骨折 2	小テスト。前回の復習。腓骨骨幹部骨折&下腿骨顆上骨折【分類・発生機序・転位・症状・治療法など】。腓骨骨幹部骨折&下腿骨顆上骨折について説明できる。
6		下腿骨骨幹部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿骨疲労骨折【分類・発生機序・転位・症状・治療法など】。下腿骨疲労骨折について説明できる。
7		下腿骨遠位端部骨折 および足関節脱臼骨折 1	小テスト。前回の復習。足関節部の解剖、バイオメカニクス・下腿骨果部【冠名骨折、部位別分類など】。足関節部の解剖や下腿果部骨折の分類を説明することが出来る。
8		下腿骨遠位端部骨折 および足関節脱臼骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【ラウゲ＝ハンセン分類の転位・症状など】。下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折のラウゲ＝ハンセン分類による説明ができる。
9		下腿骨遠位端部骨折 および足関節脱臼骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【受傷外力による分類の症状・治療法など】。下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折の受傷外力による分類での説明ができる。
10		足・足趾骨骨折 1	前回の復習・小テスト・距骨骨折【距骨の解剖・各骨折の分類、発生機転、ホーキンス分類、症状、治療法】。距骨骨折について説明することができる。
11		足・足趾骨骨折 2	前回の復習・小テスト・踵骨骨折【踵骨の解剖、発生機転、分類、症状、ペーラー角、治療法、留意点、予後】。踵骨骨折について説明することができる。
12		足・足趾骨骨折 3	前回の復習・小テスト。足根骨骨折【舟状骨骨折&立方骨骨折&楔状骨骨折の分類・発生機序・症状・治療法】舟状骨骨折・立方骨骨折・楔状骨骨折について説明ができる。
13		足・足趾骨骨折 4	前回の復習・小テスト・中足骨骨折治療法、予後、足趾、趾骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法などを説明することができる。
14		股関節脱臼 1	股関節部の【解剖・下肢のアライメント・バイオメカニクス】股関節脱臼【後方脱臼の発生機転・症状】に関して説明ができる
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 3 Clinical Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	-------------------------------------

学習内容	柔道整復学における前腕部の骨折、脱臼、軟部組織損傷及び上腕部の軟部組織損傷に対する病態、症状、治療法について学ぶ。
到達目標	症状や発生機序を理解し傷病の決定、治療法の決定ができる。臨床現場において実際に活用できるレベルかつ、柔整国家試験に対応できるレベルに到達できる。

準備学習 時間外学習	解剖学（特に筋学、骨学）の予習復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		前腕部損傷 1	前腕部の解剖と機能を理解、説明できる。前腕骨骨幹部骨折の概要を説明できる。
2		前腕部損傷 2	橈骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、が説明できる。
3		前腕部損傷 3	橈骨骨幹部骨折の合併症、治療法、後遺症が説明できる。ガレアジ骨折の病態の説明ができる。
4		前腕部損傷 4	尺骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、治療法が説明できる。
5		前腕部損傷 5	モンテギア骨折の概説、分類、治療法、後遺症の説明ができる。
6		前腕部損傷 6	橈尺両骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、合併症、の説明ができる。
7		前腕部損傷 7	橈尺両骨骨幹部骨折の治療法、後遺症、難治理由の説明ができる。
8		前腕部損傷 8	橈骨近位端部骨折の概説、発生機序、骨折型、症状、合併症、治療法の説明ができる。
9		前腕部損傷 9	肘頭骨折の概説、発生機序、骨折線と骨片転位、症状、合併症、治療法の説明ができる。
10		前腕部損傷 10	橈骨神経損傷、尺骨神経損傷の概説、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
11		上腕部（肘関節部）損傷 1	肘関節側副靱帯損傷の概説、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
12		上腕部（肘関節部）損傷 2	野球肘の分類、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
13		上腕部（肘関節部）損傷 3	後外側回旋不安定症の概説、発生機序、症状、検査法、治療法の説明ができる。
14		上腕部（肘関節部）損傷 4	橈骨神経損傷・尺骨神経損傷の概説、症状などの説明ができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 4 Clinical Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	前腕部、手関節部、手指部の軟部組織損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。
到達目標	1. 疾患概念を説明できる。 2. 各損傷におけるポイントを説明できる。 3. 前腕部、手関節部、手指部の解剖と機能について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版（南江堂） / PC / 配布資料
留意点 備 考	パワーポイントを使用するため色覚異常など配慮が必要であれば申し出ること。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		前腕部軟部組織損傷 1	前腕コンパートメント症候群 コンパートメント症候群の病態と注意点を説明できる。
2		前腕部軟部組織損傷 2	前腕部・手関節部腱鞘炎【解剖・症状・治療】 腱交叉症候群、ドケルバン病の疾患概念を説明できる。
3		手関節軟部組織損傷 1	TFCC損傷【解剖・分類・症状・治療】 本症の疾患概念を説明できる。
4		手関節軟部組織損傷 2	骨関節疾患【概要・症状・分類・治療】 キーンベック病、マーデルング変形の疾患概念を説明できる。
5		末梢神経障害 1	絞扼性神経障害・上肢【概要・解剖】 上肢における神経の走行の特徴を説明できる。
6		末梢神経障害 2	正中神経障害①【解剖・分類・概要】 正中神経障害を分類することができる。
7		末梢神経障害 3	正中神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 手根管症候群の症状を説明することができる。
8		末梢神経障害 4	尺骨神経障害①【解剖・分類・概要】 尺骨神経障害を分類することができる。
9		末梢神経障害 5	尺骨神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 ギヨン管症候群の症状を説明することができる。
10		手・手指部軟部組織損傷 1	指側副靱帯損傷【概要・症状・検査法・治療】 本損傷の保存療法の限界を説明できる。
11		手・手指部軟部組織損傷 2	ロッキングフィンガー、弾発指【概要・症状・治療】 ロッキングフィンガーと弾発指の概要を説明できる。
12		手・手指部軟部組織損傷 3	手指の変形【概要・メカニズム】 手指変形を起こす原因を説明できる。
13		検査法	上肢における徒手検査法
14		前期まとめ	前期ポイント整理
15		総復習	前期範囲の内容補填および復習

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 1 Judo Therapy Conditioning Skill Practice			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	柔道整復師において必要となる基礎包帯（下肢包帯、冠名包帯、肋骨骨折の固定法など）を学ぶ。
到達目標	実技試験までにすべての包帯法の走行を覚え、手早く綺麗に巻けるようになる。

準備学習 時間外学習	動画視聴を行い、走行の復習をしておく。
使用教材	4.5.6裂包帯、3.8ホワイトテープ、三角巾、さらし、厚紙副子（学校で準備）、配布プリント
留意点 備 考	包帯用ファイルを持参し、プリントを挟んでいく。

成績評価	実技試験90%、筆記試験10%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		足部の包帯 1	【足関節 上行麦穂帯】 上行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。
2		足部の包帯 2	【足関節 下行麦穂帯】 下行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。
3		足部の包帯 3	【鍔帯】 鍔帯の走行を覚え、巻くことができる。
4		足部の包帯 4	【踵離開亀甲帯 + 三節帯】 離開亀甲帯の圧のかけ方を知る。
5		下腿の包帯	【下腿の包帯】 下腿包帯の走行を覚え、巻くことができる。
6		膝部の包帯	【膝関節離開亀甲帯】【膝関節集合亀甲帯】 膝関節亀甲帯の走行を覚え、巻くことができる。
7		復習	今までの包帯法を振り返り巻くことができる。
8		冠名包帯 1	【ヴェルポー包帯】 ヴェルポー包帯の走行を覚え、巻くことができる。
9		冠名包帯 2	【ジュール包帯】 ジュール包帯の走行を覚え、巻くことができる。
10		冠名包帯 3	【デゾー包帯（簡易ver.）】 デゾー包帯（簡易ver.）の走行を覚え、巻くことができる。
11		鎖骨骨折の固定	【セイヤー絆創膏固定】 セイヤー絆創膏固定法の走行を覚え、固定の役割を知る。
12		肋骨骨折固定 1	【さらし厚紙副子固定法】 肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。
13		筆記試験	【筆記試験】 3年次に向け包帯固定の必修内容を覚える。
14		総復習	【実技試験に向けての総復習】 実技試験に合格できるように試験を想定した練習をする。
15		肋骨骨折固定 2	【屋根瓦状固定】 肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 2 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4
担当教員	山田 靖典 / 堀口 晃一		実務者経験	(山田) 2001年～2008年まで整形外科勤務 (堀口) 整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月			
学習内容	ストレッチングを通じて患者とのコミュニケーション・接し方について学ぶ また解剖学として筋肉を理解する						
到達目標	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナー資格取得						
準備学習 時間外学習	資格取得にむけた自主練習						
使用教材	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナーテキスト						
留意点 備 考	出席率100%により受講資格が発生する						
成績評価	座学20問（4択問題）60%以上の正答率。実技3題の評価						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ストレッチングについて	ガイダンス。P 2～10 ストレッチングについて学ぶ。
2		ストレッチング 下肢	大腿部前面後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
3		ストレッチング 下肢	大腿内転筋群・股関節前面・後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
4		ストレッチング 下肢・体幹	股関節後面・胸部のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
5		ストレッチング 体幹・バリエーション	背部・上腕前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
6		頸部・肩部筋肉の 触診	僧帽筋・肩甲挙筋・胸鎖乳突筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
7		上腕後面・前面の 筋肉の触診	上腕三頭筋・上腕二頭筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
8		背部・腱板の筋肉の 触診	広背筋・棘上筋・棘下筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
9		前腕の筋肉の触診	前腕伸筋群と屈筋群の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
10		臀部の筋肉触診	大殿筋・中殿筋・小殿筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
11		股関節前面の筋肉 触診	腸腰筋/大腿四頭筋・脊柱起立筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
12		股関節後面の筋肉 触診	ハムストリングスの起始停止にキネシオテーピングを貼付。
13		下腿後面の筋肉触 診	腓腹筋・ヒラメ筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
14		下腿前面の筋肉触 診	前脛骨筋・長母指伸筋・長趾伸筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
15		前期試験	

科目名 【英】	柔道整復実技 1 Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	堀口 晃一・本田 珠美	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月(堀口) 2022年4月から付属接骨院にて勤務(本田)
------	-------------	-------	--

学習内容	実技マニュアルを使い軟部組織損傷を理解し各検査法を学ぶ。
到達目標	徒手検査法を理解し動作ができるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の検査法
使用教材	実技マニュアル・柔道整復学(理論編・実技編)
留意点 備 考	実技のためKC・白Tシャツ・短パン

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		導入	国家試験の問題を解き、実技の授業の必要性を理解する。
2		体表解剖	身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。
3		徒手検査 1	腱板損傷・上腕に頭金損傷の疼痛誘発メカニズムを理解する
4		徒手検査 2	腱板損傷検査法（ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト）を行うことができる。
5		徒手検査 3	上腕二頭筋検査法（ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト）を行うことができる。
6		徒手検査 4	大腿四頭筋・ハムストリングス肉離れの疼痛誘発メカニズムを理解する
7		徒手検査 5	大腿四頭筋検査法（背臥位、座位、腹臥位）を行うことができる。
8		徒手検査 6	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。
9		徒手検査 7	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。
10		徒手検査 8	側副靭帯・半月板・十字靭帯損傷の疼痛風発メカニズムを理解できる
11		徒手検査 9	膝関節検査法 2（前方引き出し、ラックマン、Nーテスト）を行うことができる。
12		徒手検査 10	膝関節検査法 3（マックマレーテスト、アブレー圧迫、ワトソンジョーンズ）を行うことができる。
13		徒手検査 11	下腿三頭筋（誘発テスト、トンプソンテスト）を行うことができる。
14		徒手検査 12	足関節（前方引き出し、内反ストレステスト）を行うことができる。
15		徒手検査 13	前期振り返り・総復習

科目名 【英】	柔道整復実技 2 Judo Therapy Practical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	金釘直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術を行う。
------	------	-------	--------------------------------------

学習内容	柔道整復理論を理解した上で脱臼整復を学習する。
到達目標	実習を通じて整復法、固定法をできるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実技の期末試験100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩関節前方脱臼	コッヘル法で整復できるようになる。
2		肩関節前方脱臼	コッヘル法、ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。
3		肩関節前方脱臼	ヒポクラテス法で整復できるようになる。
4		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
5		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
6		肘内障	肘内障が整復できるようになる。
7		顎関節脱臼	口外整復法ができるようになる。
8		顎関節脱臼	口内法で整復できるようになる。
9		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼を整復できるようになる。
10		顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。
11		肩関節脱臼	コッヘル法・ヒポクラテス法の整復ができるようになる。
12		肘関節脱臼	肘関節後方脱臼・肘内障の整復ができるようになる。
13		顎関節脱臼	口外法・口内法の整復ができるようになる。
14		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の整復法ができるようになる。
15		試験の振り返り	全ての項目の振り返りを行い、整復法ができるようになる。

科目名 【英】	臨床実習 2 Clinical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	5・6

担当教員	姫 将司 / 岩本 暁美	実務者経験	(姫) 2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院で勤務 (岩本) 2007-2010接骨院で勤務
------	--------------	-------	--

学習内容	医療者が臨床に必要なマナーや倫理、診察法、症例レポートの作成方法を学ぶ。 医療面接や接遇の実技を行う。
到達目標	医療人としての身嗜みを整えや接遇としての患者対応をすることができる。 一般的な内科疾患、整形外科疾患を視診から判断することができる。 外来患者の症例記録から症例レポートを作成することができる。

準備学習 時間外学習	実習内容について各自調べる。また、1年次の学習内容を復習しておくことが望ましい。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	必要に応じて一般臨床医学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	出席率 及び 臨床実習レポートにて評価する。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ガイダンス	臨床実習の意義、目的、評価を学ぶ。 適切な身だしなみを実践できる。
2		医療倫理	インフォームド・コンセント、守秘義務、医療過誤、衛生観念（スタンダード・プリコーション）を学ぶ。 インフォームドコンセントなど学んだことを説明できる。
3		診察法 1	医療面接、視診、聴診、打診、触診の意義を学ぶ。 医療面接で重要なこと、視診・聴診・触診での注意事項を答えることができる。
4		診察法 2	医療面接の意義、目的、方法を学ぶ。 情報収集、良好な医療従事者-患者関係を説明できる。
5		診察法 3	医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践し、病歴情報を収集することができる。
6		診察法 4	視診・聴診・打診・触診の方法を学ぶ。 診察上の内科病変、整形外科的病変を答えることができる。
7		診察法 5	接骨院で使用する一般的な物理療法器機の扱い方を学ぶ。 一般的な物理療法器機の禁忌症や注意事項を答えることができる。
8		診察法 6	一般的なビジネスマナーを学ぶ。 服装と身だしなみのマナー、お辞儀、 会話、言葉遣いのマナーや笑顔とあいさつを行うことができる。
9		診察法 7	医療人としてのマナーを学ぶ。 医療人としての心構え、職場のマナー、患者対応の注意事項を答えることができる。
10		外部臨床実習 ガイダンス	外部臨床実習の意義、目的、評価方法を学ぶ。 外部臨床実習の到達目標を説明できる。
11		ロールプレイング 1	症例記録を作成する際の注意事項を学ぶ。 ロールプレイングから症例記録を作成することができる。
12		ロールプレイング 2	症例レポートを作成する際の注意事項を学ぶ。 症例記録から症例レポートを作成することができる。
13		ロールプレイング 3	一般的な整骨院業務を学ぶ。 挨拶・事前準備（ベッドメイク、掃除など）・事後片付け（掃除、翌施術日の準備など）・ 介助法（寝かせ方、座らせ方、起こし方、立たせ方など）を実施することができる。
14		振り返り 1	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 医療従事者としての自覚や感想、反省を述べることができる。
15		振り返り 2	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 症例レポートの発表を行うことができる。

16		検査法 1	上肢の検査法を実施することができる。
17		検査法 2	上肢・下肢の検査法を実施することができる。
18		検査法 3	下肢の検査法を実施することができる。
19		ROM検査法	上肢・体幹のROMが計測できるようになる。
20		ROM検査法	下肢のROMが計測できるようになる。
21		MM T 1	MM T について理解することができる。
22		MM T 2	MM T について理解することができる。
23		MM T 3	MM T について理解することができる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 1 Course of Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	6
担当教員	角田 晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施				
学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。						
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解し、それを説明できる。	
2	運動学 2	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解し、各関節での実際を想起できる。	
3	運動学 3	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解し、それを説明できる。	
4	運動学 4	四肢と体幹の運動 1【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。	
5	運動学 5	四肢と体幹の運動 2【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。	
6	運動学 6	四肢と体幹の運動 3【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。	
7	運動学 7	四肢と体幹の運動 4【股関節】 股関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。	
8	運動学 8	四肢と体幹の運動 5【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。	
9	運動学 9	四肢と体幹の運動 6【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。	
10	運動学 10	四肢と体幹の運動 7【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。	
11	運動学 11	四肢と体幹の運動 8【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。	
12	運動学 12	姿勢 基本的な立位姿勢について理解し、ヒトの姿勢の観察を通じてこれを想起できる。	
13	運動学 13	歩行 歩行についての基本的な事項を理解し、ヒトの歩行の観察を通じてこれを想起できる。	
14	運動学 14	運動発達 運動発達について理解し、これを想起できる。	
15	運動学 15	運動学習 運動学習の方法・過程について理解し、これを想起できる。	

科目名 【英】	柔道整復応用講座 4 Course of Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	骨・関節・筋・靱帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器の基礎知識 ①	骨 関節 の基礎知識 の 理解 と 習得	
2	整形外科診察法①	姿勢 四肢・体幹 上下肢長 の診方 計測法の 理解 と 習得	
3	整形外科検査法①	画像検査 骨密度検査 の 原理 と 診方 の 理解 と 習得	
4	整形外科的治療法 ①	保存療法 の 意味 と 意義 と 方法 の 理解 と 習得	
5	骨・関節損傷総論 ①	骨折 の 定義・分類・症状・診断・治療・治療 の 理解 と 習得	
6	骨・関節損傷総論 ③	骨折 の 合併症 関節損傷 の 理解 と 習得	
7	感染性疾患①	感染の基礎 急性化膿性骨髄炎 慢性骨髄炎 の 理解 と 習得	
8	骨および軟部腫瘍 ①	悪性骨腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
9	骨および軟部腫瘍 ③	悪性・良性軟部腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
10	関節リウマチ	関節リウマチの 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
11	その他の骨関節疾患	血友病性関節症・離断性骨軟骨炎・関節遊離体の症状 病態 治療の 理解 と 習得	
12	骨粗鬆症①	骨粗鬆症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
13	先天性の骨・軟骨疾患①	遺伝形式基礎 と 先天性骨系統疾患の総論 についての 理解 と 習得	
14	先天性の骨・軟骨疾患③	大理石病・マルファン症候群・多発性神経線維腫症・くる病・巨人症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
15	骨端症②	テストの解説及び セーバー病・キーンベック病・ケーラー病の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	

科目名 【英】	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の基礎的な内容を理解する。生活機能を評価し、改善するための着眼を養う。
到達目標	リハビリテーションの理念を理解し説明することが出来る。医学的リハビリテーションにおける多職種協働によるアプローチを実践するための、専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		リハビリテーションの概念・歴史	リハビリテーションの概念・歴史 リハビリテーションの理念を説明することができるようになる
2		障害の捉え方・ICIDH	国際障害分類 ICIDHでの障害分類を説明できる。簡単な障害をICIDHの障害構造に分類できるようになる
3		障害と生活機能 ICF	国際生活機能分類 ICFに基づく生活機能の説明ができる。背景因子への介入方法について説明できるようになる
4		リハビリテーションでの多職種連携	リハビリテーションに関わる職種・多職種連携 リハビリテーションに関わる職種を説明することができるようになる
5		評価学 1	リハビリテーションにおける評価 リハビリテーションで用いる評価法を理解できるようになる
6		障害学と治療学 1	関節機能障害とその治療 可動域制限の原因の鑑別診断とその治療手技について理解できるようになる
7		障害学と治療学 2	筋力低下・神経障害とその治療 筋力・神経機能の評価から治療までの過程を理解できるようになる
8		障害学と治療学 3	各種治療技術の紹介（身体作業療法・精神科作業療法） 作業療法について説明できるようになる
9		障害学と治療学 4	各種治療技術の紹介（言語障害・高次脳機能障害ととその治療） 言語障害、高次脳機能障害について理解し説明できるようになる
10		高齢者 1	廃用症候群 廃用症候群の各症候を理解し、その対処法を説明できるようになる
11		高齢者 2	医療制度・介護保険制度 高齢者に関連する社会制度で実践されるリハビリテーションについて理解できるようになる
12		脳血管障害 1	脳血管障害 脳血管障害の急性期のリハビリテーションを理解できるようになる
13		脳血管障害 2	脳血管障害 脳血管障害の回復期・維持期のリハビリテーションを理解できるようになる
14		パーキンソン病	パーキンソン病・神経疾患 パーキンソン病等のリハビリテーションについて理解できるようになる

15	試験解説・まとめ	前期試験を解説 前期で学習した範囲が説明できるようになる
----	----------	---------------------------------

科目名 【英】	一般臨床医学 General Remarks of Clinical Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	---

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		医療面接 視診	医療面接、方法と意義、社会歴、主訴について理解、説明できるようになる 体格・体形 身体所見の取り方について理解、説明できるようになる
2		視診	精神状態、意識状態について理解、説明できるようになる 異常運動 不随意運動、麻痺について理解、説明できるようになる
3		視診	片麻痺歩行～随意性歩行について理解、説明できるようになる 皮膚の色調の異常について理解、説明できるようになる
4		視診	顔面の異常運動について理解、説明できるようになる 頸部の異常所見について理解、説明できるようになる
5		視診 打診	手の変形、足の変形について理解、説明できるようになる 打診音の種類について理解、説明できるようになる
6		聴診	肺の聴診、心臓の聴診、腹部の聴診について理解、説明できるようになる
7		触診 生命徴候	腹部の異常について理解、説明できるようになる 体温、血圧について理解、説明できるようになる
8		感覚検査 反射検査	表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査について理解、説明できるようになる 反射の異常について理解、説明できるようになる
9		国家試験出題疾患 解説	内分泌疾患、腎・尿路系疾患、神経疾患、リウマチ・膠原病、アレルギー疾患について 理解、説明できるようになる
10			

科目名	外科学概論 Introduction of Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	医療の基本を学ぶ。まず、外科学総論として外傷学や手術の基本を学ぶ。外科学各論として、各臓器の外科疾患における病態と治療法について学ぶ。
到達目標	医学における生理学と解剖学に基づいた外科臨床の考え方を身につける。さらに、基礎的な医療用語を筆記にて説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「外科学概論」（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験で100%評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	損傷	創と傷について説明できる。バイタルサインが列挙できる。	
2	熱傷・感染症	熱傷深度について説明できる。破傷風など外科感染症を説明できる。	
3	腫瘍	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。ボールマン分類を図示できる。	
4	ショック・輸液	ショックの定義を説明できる。酸塩基平衡を表示できる。	
5	消毒滅菌・手術	消毒液と滅菌法を説明できる。手術法を列挙できる。	
6	麻酔・免疫・出血	局所麻酔について説明できる。内外出血の原因疾患を列挙できる。	
7	心肺蘇生	救急医療のABCとAEDを説明できる。	
8	総論総まとめ	中間テストを行ない、理解していない項目を学習する。	
9	脳神経外科疾患	頭部外傷の病型分類を表示できる。頭蓋内出血の各疾患を説明できる。	
10	甲状腺頸部胸壁呼吸器疾患	甲状腺機能亢進症について説明できる。肺がん、肋骨骨折を説明できる。	
11	心臓脈管疾患	虚血性心疾患を説明できる。末梢の動脈静脈疾患を説明できる。	
12	乳腺疾患・腹部外科疾患	乳がんについて説明できる。腹部外科総論を説明できる。	
13	腹部外科疾患	腹部外科各論を説明できる。急性腹症を表示できる。	
14	確認テスト	個別医療関連単語について、知識を検証し確認する。	
15	各論総まとめ	理解していない項目を学習する。各論のうち特に外傷外科について説明できるようになる。	

科目名 【英】	基礎鑑別学 Difference Diagnosis Basic			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関日病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	------	-------	---

学習内容	柔道整復師がチーム医療の一員として活躍するために必要な事は、他の職種とスムーズな患者情報の共有と柔道整復師の対応できる疾患の速やかな病態把握である。基礎鑑別学ではこれらの課題を遂行するための基礎知識を学ぶ。特に重篤な後遺症をを招くような注意すべき疾患の兆候に重点を置いて解説する
到達目標	患者の兆候から今後起こりえる病態を考察できるようになる 医療機関との連携が必要であると判断した際に、スムーズな患者情報の提供ができるようになる

準備学習 時間外学習	人体の構造である解剖学 柔道整復術の関連の深い整形外科の知識を整理しておくこと
使用教材	全国柔道整復学校協会監修 「医療の中の柔道整復」 有沢 修 著
留意点 備 考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		鑑別学1	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
2		鑑別学2	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
3		鑑別学3	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
4		鑑別学4	血流障害を伴う損傷 血流障害の兆候を理解し、緊急時の対応が出来るようになる
5		鑑別学5	末梢神経障害を伴う損傷 神経障害の発生機序を理解し、神経障害特有の病態から損傷されている神経の判断が出来る
6		鑑別学6	脱臼骨折 脱臼骨折の状態とその予後について理解する。後遺症の残らない対応の判断が出来る
7		鑑別学7	外出血を伴う損傷 柔道整復術の禁忌症の可能性を念頭に置いた対応が出来るようになる
8		鑑別学8	病的骨折及び脱臼 骨折、脱臼の対応とともに契機となる先行病変について理解し説明できるようになる
9		鑑別学9	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
10		鑑別学10	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
11		鑑別学11	脊髄症状のある損傷 脊髄損傷の症状を重篤化しない対応方法と脊髄損傷を引き起こす外傷について説明できる
12		鑑別学12	呼吸運動障害を伴う損傷 呼吸運動障害を呈する患者の対応と医療機関との連携をスムーズに行うことが出来る
13		鑑別学13	内蔵損傷の合併が疑われる損傷 内蔵損傷の兆候と対応方法を理解しその概要を説明できるようになる
14		鑑別学14	高エネルギー外傷 身体に高エネルギーの外力が加わった際の反応と組織損傷について説明できるようになる
15		鑑別学15	全体のまとめと総復習

科目名 【英】	外傷予防理論実習 1 Injury Prevention Conditioning Practices 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	田中 精一	実務者経験	2013年3月より通所介護施設開設。高齢者の転倒による外傷予防を含めた日常生活機能の維持・向上への機能訓練指導を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に転倒を含めた外傷の予防、日常生活能力の維持・向上にむけた介護予防等は機能訓練指導員の大きな責務です。柔道整復師はその一員として位置づけられています。今後益々その担い手として介護分野への参画が期待されています。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事。また、医療分野への就職あるいは独自での開業だけに留まらず、介護分野への参入で将来の生計の幅の広がりを感じていただく事を目的とします。
到達目標	機能訓練指導員として介護保険制度の知識と技術を習得。

準備学習 時間外学習	授業計画を確認し、配布資料・講義内容をもとに予習・復習を行ってください。聞き逃しや疑問点がありましたら質問に来てください。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	配布したプリントは整理し、授業の度に持参して受講するのが望ましい。

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整師と介護保険	介護保険サービスにおける柔整師の必要性の理解。
2		柔整師と介護保険	介護保険サービスにおける柔整師の職務の理解。
3		発達と老化の理解Ⅰ	サルコペニアとフレイルの違い。
4		介護保険制度 認定調査	介護保険制度の理解 認定調査内容の理解
5		介護保険制度 二人組 認定調査	介護保険制度の理解 認定調査内容の理解と調査体験。
6		介護区分とサービス	各種介護サービスの理解
7		介護の過程Ⅰ 情報分析	介護支援のための情報分析（基本情報、アセスメント、課題の抽出）
8		介護の過程Ⅱ 居宅介護計画（原案）作成	介護支援のための居宅介護計画の作成能力習得。
9		ADLの評価法FIM 高齢者の 身体機能	ADLの評価（ランクによる支援の考え方） 歩行とスクワット動作等の確認と指導ポイント
10		機能訓練指導 機能訓練計画作成	機能訓練指導方法の理解。 個別機能訓練計画作成力
11		認知症の理解	認知症患者の理解
12		高齢者介護と I C F	国際障害分類と国際生活機能分類（世界共通の分類）の理解
13		ロコモティブシンドローム	ロコモテスト方法と評価方法の習得
14		高齢者救急・高齢者疾患	介護施設における救急と高齢者疾患の理解・我が国と欧米の死生観の違い
15		試験解答と解説 柔整師と機能訓練指導員 まとめ	筆記試験解答と解説 柔道整復師としての職業選択の幅

科目名 【英】	柔道整復実技3 Judo Therapy Practical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	金釘直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術を行う。
------	------	-------	--------------------------------------

学習内容	肩鎖関節部の固定法及び代表的な骨折の整復法を学ぶ。 骨折を整復する前後の診察法を学ぶ。
到達目標	鎖骨骨折、上腕骨外科頸外転型骨折、上腕骨顆上伸展型骨折、コーレス骨折、上腕骨顆上骨折の整復の操作を実施できる。肩鎖関節脱臼の固定ができる。 臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実技の期末試験100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼におけるテーピング固定ができる 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
2		鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や固定法を行うことができる。
3		上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
4		上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
5		コーレス骨折 牽引直圧法 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
6		コーレス骨折 屈曲 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
7		上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
8		上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
9		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼のテーピングによる固定法を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や固定法を行うことができる。
10		鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
11		上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
12		コーレス骨折 牽引直圧法/屈曲整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
13		上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
14		総復習1	後期の授業で学んだ全て整復法を左右のどちらとも患肢として制限時間を設け時間内に実施できる。
15		総復習2	要点の整理。説明しながら整復法ができるようになる。

科目名 【英】	柔道整復実技 4 Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	前腕骨遠位端部、手根骨、中手骨、指骨折と手根骨、手指の脱臼の各論を学ぶ。また顎、肩、肘、肩鎖関節脱臼の整復実技、functional braceによる上腕骨骨幹部骨折の応用固定法を学びます。
到達目標	2年生の進級実技試験に合格し各骨折、脱臼の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第7版
留意点 備 考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		前腕骨遠位端部骨折	橈骨遠位端部骨折の分類、コーレス骨折の発生機序、骨折線、骨片転位説明できる。
2		前腕骨遠位端部骨折	コーレス骨折の症状、変形、定型的転位、合併症などが説明できる。
3		前腕骨遠位端部骨折	コーレス固定法、続発症、後遺症などが説明できる。
4		前腕骨遠位端部骨折	スミス骨折の発生機序、骨片転位、症状、固定法、後療法の説明ができる。
5		前腕骨遠位端部骨折	パートン骨折、ショーファー骨折、橈骨遠位端骨端線離開の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。
6		手・指部の損傷	舟状骨骨折の特徴、発生機序、分類、症状、合併症、整復固定法、難治の理由、予後を理解する。
7		手・指部の損傷	三角骨、有鉤骨、豆状骨、月状骨、有頭骨、大菱形骨骨折、手関節の脱臼、遠位橈尺関節脱臼を理解できる。
8		手・指部の損傷	月状骨骨折、月状骨周囲脱臼、CM関節、母指MP関節脱臼、母指以外のMP関節脱臼
9		手・指部の損傷	母指以外のMP関節脱臼、中手骨骨折、ボクサー骨折の骨片転位、整復法、固定法を理解できる。
10		手・指部の損傷	中手骨骨幹部骨折（横骨折、斜骨折、螺旋状骨折）ベネット骨折の発生機序、症状、注意事項を理解する。ローランド骨折を理解できる。
11		手・指部の損傷	CM関節の脱臼骨折、指骨骨折の分類、基節骨骨折の骨片転位、整復固定法が理解できる。
12		手・指部の損傷	中節骨骨折（頸部、骨幹部、掌側板付着部裂離骨折）の骨片転位、整復固定法が理解できる。末節骨骨折の分類、骨片転位、整復固定法が理解できる。
13		上腕骨骨幹部骨折の応用固定法	キャスト材を用いたサルミエントの機能的装具固定が出来る。
14		上腕骨骨幹部骨折の応用固定法	キャスト材を用いたサルミエントの機能的装具固定が出来る。
15		後期試験解答	後期試験問題の解答と解説と2年生進級実技試験の脱臼整復法の復習

科目名 【英】	柔道整復実技 5 Judo Therapy Practical Training 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	下肢および頭部顔面の損傷を学ぶ。
到達目標	発生機序や症状を理解し、鑑別することができる。国家試験に対応できるレベルに到達できる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）を復習する
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	50分授業

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	股関節の 軟部組織損傷 1	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群、股関節外転位拘縮、内転位拘縮、屈曲位拘縮を理解する	
2	股関節の 軟部組織損傷 2	発育性股関節不全、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症、変形性股関節症について理解する	
3	股関節の 軟部組織損傷 3	ヒップテスト、トーマステストの実施、国試過去問で振り返り、問題解説を行う	
4	大腿部の 軟部組織損傷 1	筋損傷の総論を振り返り、大腿部打撲、大腿四頭筋の肉ばなれについて理解する	
5	大腿部の 軟部組織損傷 2	ハムストリングの肉ばなれについて理解し、SLRを実施する	
6	大腿部の 軟部組織損傷 3	大腿部損傷の検査法陽性メカニズムについて理解し、国試過去問で振り返り、問題解説を行う	
7	肩関節・上腕二頭筋の検査法	腱板断裂および上腕二頭筋長頭腱炎の検査法陽性メカニズムについて理解する	
8	膝関節の 軟部組織損傷 1	側副靱帯損傷の検査法陽性メカニズムについて理解する	
9	膝関節の 軟部組織損傷 2	十字靱帯損傷の検査法陽性メカニズムについて理解する	
10	膝関節の 軟部組織損傷 3	半月板損傷の検査法陽性メカニズムについて理解する	
11	下腿部の 軟部組織損傷	下腿三頭筋損傷、アキレス腱損傷の検査法陽性メカニズムについて理解する	
12	足関節部の 軟部組織損傷	前方引出し検査、内反ストレステストの検査法陽性メカニズムについて理解する	
13	脊柱部の 軟部組織損傷 1	脊柱部の検査法陽性メカニズムについて理解する	
14	脊柱部の 軟部組織損傷 2	脊柱部の検査法陽性メカニズムについて理解する	
15	試験解説	試験の振り返り・復習	

科目名 【英】	柔道整復実技 6 Judo Therapy Practical Training			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	下肢の損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。
到達目標	1. 疾患概念を説明できる。 2. 各損傷におけるポイントを説明できる。 3. 膝関節部、足関節部、足部の解剖と機能について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版（南江堂） / PC / 配布資料
留意点 備 考	パワーポイントを使用するため色覚異常など配慮が必要であれば申し出ること。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		足・足趾骨折	足根骨骨折 距骨骨折、踵骨骨折 足根骨骨折の発生機序、症状を説明できる
2		足・足趾骨折	足根骨骨折 舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折 足根骨骨折の発生機序、症状を説明できる
3		足・足趾骨折	中足骨骨折、趾骨骨折 中足骨骨折と趾骨骨折の分類、症状を説明できる
4		膝関節部軟部組織損傷	半月板損傷、側副靱帯損傷 症状と検査法を説明できる
5		膝関節部軟部組織損傷	ACL損傷、PCL損傷 症状と検査法を説明できる
6		膝関節部軟部組織損傷	発育期の膝関節障害 各障害の概念を説明できる
7		膝関節部軟部組織損傷	膝蓋大腿関節障害 各障害の概念を説明できる
8		下腿部軟部組織損傷	アキレス腱断裂、アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎 アキレス腱断裂の症状、検査法、治療法を説明できる
9		下腿部軟部組織損傷	下腿三頭筋肉離れ、下腿部スポーツ障害 症状、検査法を説明できる
10		足関節部軟部組織損傷	足関節捻挫（類症鑑別を含む） 各損傷の症状を説明し、類症鑑別を上げることができる
11		足関節部軟部組織損傷	足関節捻挫（類症鑑別を含む） 各損傷の症状を説明し、類症鑑別を上げることができる
12		足、足趾部軟部組織損傷	足部有痛性疾患 各疾患を挙げて、概念を説明できる
13		足、足趾部軟部組織損傷	足部有痛性疾患 各疾患を挙げて、概念を説明できる
14		下肢軟部組織損傷の治療法	下肢軟部組織損傷の検査、固定法を学ぶ
15		後期まとめ	後期内容のまとめ、補填

科目名 【英】	臨床実習 3 Clinical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	夏季集中	曜 日	外部実習	時 限	

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	臨床体験、臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を修得する
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対し、適切な態度で接する。

準備学習 時間外学習	1. 施術所で患者に不快感を与えない身嗜みを整える。 2. 施術者に相応しい挨拶（自己紹介）ができる。 3. 施術所で患者に不快感を与えない態度、適切な言葉づかいができること。 4. 医学的な清潔の意味が説明できること。 5. 施術所の清潔保持の重要性について説明できること。 6. 守秘義務を説明できること。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】						
1		基礎実習	1) 柔道整復師として相応しい服装、身嗜み、態度を身に付ける 2) 医療面接の実施 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療器機の効果、禁忌の理解 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 1) 環境準備 2) 受付業務 3) 患者さんの誘導を実施			
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9		患者さんに対する対応	1) 患者に対して適切な対応ができる。 2) 患者の抱える問題点に共感できる。 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。			
10						
11						
12						
13		施術録作成・症例検討	1) 施術録の記載 2) 症例検討の実施			
14						
15						
16						
17		保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施			
18						
19						
20						
21		実習期間	時間数	回数	総時間	期間
22			8時間(全日)	6回 (6回目は5時間)	45時間	8月中の1週間
23						

科目名 【英】	柔道整復応用講座 2 Course of Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患ごとのリハビリテーションの内容を理解する。 柔道整復師としてリハビリテーション専門職と関わるときの共通言語の理解に繋げる。
到達目標	主要な疾患でのリハビリテーションを理解し説明することが出来る。 専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト１００％
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		運動器障害 1	骨折・変形性関節症・骨粗鬆症 高齢者の骨折・骨粗鬆症について説明できるようになる
2		運動器障害 2	上肢の運動器疾患 上肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
3		運動器障害 3	下肢の運動器疾患 下肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
4		運動器障害 4	体幹の運動器疾患 体幹の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
5		内部障害 1	呼吸機能障害・COPD・在宅酸素療法 呼吸機能障害を説明できるようになる
6		内部障害 2	心疾患リハビリテーション・運動処方 心臓機能障害を説明できるようになる
7		スポーツ・障害者 スポーツ	スポーツリハビリテーション・障害者スポーツ スポーツリハビリテーション・障害者スポーツについて概説できるようになる
8		試験解説・まとめ	後期試験解説 後期で学習した範囲が説明できるようになる
9			

科目名 【英】	柔道整復応用講座 3 Course of Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月				
------	-------	-------	---	--	--	--	--

学習内容	内科的疾患について学ぶ						
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。						

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。						
使用教材	教科書「一般臨床医学」						
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。						

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。						
------	------------------------	--	--	--	--	--	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		診察概論 診察の意義	診察の進め方 心構え 評価と記録について理解、説明できるようになる
2		視診	体位・姿勢、栄養状態、肥満とやせについて理解、説明できるようになる
3		視診	運動失調、異常歩行について理解、説明できるようになる
4		視診	皮膚の正常の異常について理解、説明できるようになる 頭部の形、大きさ、顔貌、顔色について理解、説明できるようになる
5		視診	脊柱の異常変化について理解、説明できるようになる 胸部、腹部の異常変化について理解、説明できるようになる
6		打診	胸部の打診、腹部の打診について理解、説明できるようになる
7		触診	皮膚、皮下の異常について理解、説明できるようになる
8		生命徴候	脈拍、呼吸の異常について理解、説明できるようになる
9		テスト解説	定期考査について疑義受付
10			

科目名 【英】	柔道整復応用講座 6 Course of Judo Therapy Advanced 6			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	外科学を学び柔道整復の臨床に応用できるように基礎知識を身につける。
到達目標	前期範囲を含めて自ら考えて説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	授業同様、自学習において自ら考える力を養うことを望む
使用教材	外科学概論 改訂第4版 南江堂
留意点 備 考	50分授業として実施する。

成績評価	期末試験で100%評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		外科学総論 1	損傷と創傷 損傷の分類を説明できる
2		外科学総論 2	熱傷、炎症、腫瘍 熱傷の分類を説明できる
3		外科学総論 3	消毒、麻酔、手術 消毒薬と特徴について説明できる
4		外科学総論 4	ショック、輸液、心肺蘇生 ショックの定義を説明できる
5		外科学総論 5	移植、出血と止血 移植の用語を説明できる
6		外科学総論 6	総論まとめ 総論の要点をまとめ、説明できる
7		外科学総論 7	総論テスト（中間テスト） 中間試験で及第点がとれる
8		外科学各論 1	脳神経外科疾患 主な脳神経疾患の種類を挙げることができる
9		外科学各論 2	甲状腺、胸壁・呼吸器疾患 胸部損傷での注意点を説明することができる
10		外科学各論 3	心臓・脈管疾患 ASO, TAOの相違点を説明できる
11		外科学各論 4	乳腺疾患、腹部疾患 腹部疾患の症状を説明できる
12		外科学各論 5	腹部疾患 腹部疾患における注意点を説明できる
13		外科学各論 6	各論まとめ 各論の要点をまとめ、説明できる
14		外科学各論 7	外科学まとめ、受験の心構え 医療者としての心構えを示すことができる
15		学年末まとめ	試験実習 1 模擬試験で及第点がとることができる

科目名 【英】	関係法規 Legal Issues in medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。
到達目標	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を説明することができ、適正な柔道整復師業務を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	関係法規の予習が必要。
使用教材	教科書『関係法規』、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		法の体系	法の体系について説明することができる。
2		患者の権利	患者の権利について説明することができる。
3		医療過誤とリスク マネジメント	医療過誤とリスクマネジメントについて説明することができる。
4		柔道整復師法の目的・定義	柔道整復師法の目的・定義について説明することができる。
5		柔道整復師免許	柔道整復師免許について説明することができる。
6		柔道整復師名簿	柔道整復師名簿について説明することができる。
7		柔道整復師免許証	柔道整復師免許証について説明することができる。
8		合格証書、合格証明書	合格証書、合格証明書について説明することができる。
9		業務範囲と禁止	業務範囲と禁止について説明することができる。
10		施術所	施術所について説明することができる。
11		広告、罰則	広告、罰則について説明することができる。
12		医療法	医療法について説明することができる。
13		指定登録機関、指定試験機関	指定登録機関、指定試験機関について説明することができる。
14		社会福祉関係法規	社会福祉関係法規について説明することができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔道概論 Introduction of Judo			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	5
担当教員	水谷 遼香	実務者経験	2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。				
学習内容	1年生で履修した柔道整復学総論の国家試験対策としての復習を行っていく。						
到達目標	柔道整復学総論と各論を結びつけ、引き出すことができ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。						
準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。						
使用教材	柔道整復学理論編第7版、柔道整復学実技編第2版、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	筆記試験100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整総論 1	骨損傷（分類、症状） 分類・症状の落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。	
2	柔整総論 2	骨損傷（合併症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。	
3	柔整総論 3	骨損傷（続発症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。	
4	柔整総論 4	骨損傷（後遺症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。	
5	柔整総論 5	骨損傷（小児・高齢者骨折の特徴、癒合日数、治癒経過、予後、影響因子） 年齢での治癒の違いと、影響因子を理解し、過去問題を解くことができる。	
6	柔整総論 6	関節損傷（構造、分類、関節構成組織損傷） 関節構成組織を見直し、過去問題を解くことができる。	
7	柔整総論 7	脱臼（分類、症状、合併症、整復障害、予後） 分類・症状などの落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。	
8	柔整総論 8	筋損傷と腱損傷 筋・腱損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。	
9	柔整総論 9	末梢神経損傷、血管系・リンパ系損傷、皮膚損傷 神経・脈管損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。	
10	柔整総論 10	治療法（固定法、後療法） 固定法と後療法のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。	
11	柔整総論 11	評価、治療法（整復法、初期処置） 整復法と初期処置のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。	
12	柔整実技総論 1	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無、説明と同意） 診察の流れを把握することができる。	
13	柔整実技総論 2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（徒手整復、固定法、後療法、治癒の判定、予後） 整復から治癒に至るまでの流れを把握することができる。	
14	柔整実技総論 3	肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方 鑑別を行い、各疾患の導き出すことができる。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	後療法学 Arter Treatment of injury			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	6
担当教員	水谷 遼香	実務者経験	2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。				
学習内容	外傷の経過および治療判断方法を学び、固定除去後の治療法を理解する。 また、臨床で診ることが多い軟部組織損傷の治療法を学ぶ。						
到達目標	学んだことを臨床実習、卒業後の臨床で役立てるよう、説明、実施することができるようになる。						
準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。						
使用教材	柔道整復学理論編第7版、柔道整復学実技編第2版、解剖学第2版、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	筆記試験100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷）について理解し、説明できるようになる。
2		上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷）について理解し、説明できるようになる。
3		上肢疾患	肩部軟損（インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱損傷）について理解し、説明できるようになる。
4		上肢疾患	肩部軟損（上腕二頭筋長頭腱損傷）について理解し、説明できるようになる。
5		上肢疾患	肩部軟損（SLAP損傷、ルーズショルダー）について理解、説明できるようになる。
6		上肢疾患	肩部軟損（リトルリーガー肩）について理解し、説明できるようになる。
7		上肢疾患	末梢神経障害（ベネット損傷、腋窩神経、肩甲上神経）について理解し、説明できるようになる。
8		上肢疾患	末梢神経障害（橈骨神経）について理解し、説明できるようになる。
9		上肢疾患	末梢神経障害（正中神経）について理解し、説明できるようになる。
10		上肢疾患	末梢神経障害（尺骨神経）について理解し、説明できるようになる。
11		上肢疾患	肘関節部の軟損について理解し、説明できるようになる。
12		上肢疾患	肘関節部の軟損について理解し、説明できるようになる。
13		上肢疾患	前腕、手指の軟損について理解し、説明できるようになる。
14		上肢疾患	手指の軟損について理解し、説明できるようになる。
15		上肢疾患	手指の軟損について理解し、説明できるようになる。

科目名 【英】	外傷予防理論実習 2 Injury Prevention Conditioning Practices 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	----------------------------

学習内容	運動生理学の観点から競技者の身体的変化を理解し、予防やトレーニングの基礎知識を習得、また実技により体得する
到達目標	運動生理学の基礎、ストレッチ、トレーニング、競技者の予防について理解を深める

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	競技者の外傷予防
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100点満点
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動生理学 1	オリエンテーション 運動生理学について基礎的な内容と今後の勉強の進め方を理解する	
2	運動生理学 2	レジスタンストレーニング 持久カトレーニングについて 筋カトレーニングの基礎知識を理解する	
3	運動生理学 3	エネルギー代謝 ATP—CP系 解糖系 TCA回路 運動時のエネルギー代謝について理解する	
4	運動生理学 4	筋繊維タイプ アイソメトリックコントラクション アイソトニックコントラクション 筋線維の種類や筋収縮の様式を理解する	
5	運動生理学 5	呼吸中枢 最大換気量 最大酸素摂取量 AT LT 酸素借 運動時の呼吸について理解する	
6	運動生理学 6	循環 競技者の血圧 運動時の循環系についての理解を深める	
7	運動生理学 7	運動とホルモン 性ホルモン 運動時のホルモン分泌について理解する	
8	運動生理学 8	有酸素作業能力 間欠的作業能力 競技者の運動生理学的特徴について理解する	
9	外傷予防概論 1	外傷の発生要因 内的要因 外的要因について理解を深める	
10	外傷予防概論 2	外傷の予防対策 外傷予防の基礎知識を理解する	
11	外傷予防実技 1	タイトネステスト 関節弛緩性テスト 実際の検査法を理解し実践する	
12	外傷予防実技 1	アイシング ストレッチング 実際の方法を理解し実践する	
13	外傷予防実技 1	スポーツマッサージ スポーツテーピング 実際の方法を理解し実践する	
14	外傷予防実技 1	体幹強化トレーニング 下肢安定性向上トレーニング 肩甲帯トレーニングなど 種々のトレーニングについて方法を学び実践する	
15	総復習	理論実技の総復習 理論実技ともに復習し理解を深める	

科目名 【英】	柔整外傷学実習 1 Judo Therapy and Traumatology Practice1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。□
------	-------	-------	--------------------------------

学習内容	各種固定法、軟部組織損傷判別テストの習得
到達目標	卒業実技試験及び認定実技試験科目の実技の習得

準備学習 時間外学習	プリントによる予習、実習後の復習
使用教材	実技マニュアル、シナリオプリント
留意点 備 考	包帯、枕子など固定材料の準備物忘れに留意する。 副教材として柔道整復学理論編、実技編の教科書、固定法マニュアルを持参して受講する事が望ましい。

成績評価	実技審査 100%にて評価する
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ボクサー骨折の固定	シナリオに沿ってアルミ副子、包帯を使用しボクサー骨折の固定が出来るようになる。
2		肋骨骨折の固定	シナリオに沿って晒、厚紙副子を使用し肋骨骨折部の固定が出来るようになる。
3		第二PIP関節背側脱臼の固定	シナリオに沿ってアルミ副子、包帯を使用し第二PIP関節背側脱臼の固定が出来るようになる。
4		アキレス腱断裂の固定	シナリオに沿ってソフトシーネ、包帯を使用しアキレス腱断裂の固定が出来るようになる。
5		下腿骨骨幹部骨折の固定	シナリオに沿ってソフトシーネ、包帯を使用し下腿骨骨幹部骨折の固定が出来るようになる。
6		膝関節側副靱帯損傷の固定	シナリオに沿ってテーピングを使用し膝関節側副靱帯損傷の固定が出来るようになる。
7		足関節外側側副靱帯の固定	シナリオに沿って包帯、厚紙副子を使用し足関節外側側副靱帯の固定が出来るようになる。
8		足関節外側側副靱帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靱帯をバスケットウィーブ固定出来るようになる。
9		足関節外側側副靱帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靱帯をフィギアエイト固定出来るようになる。
10		足関節外側側副靱帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靱帯をヒールロック固定出来るようになる。
11		大腿四頭筋損傷検査法1、2、3	シナリオに沿って伸張時、収縮時（臥位）、収縮時（座位）疼痛誘発テストが出来るようになる。
12		ハムストリング損傷検査法1、2	シナリオに沿って伸張時、収縮時疼痛誘発テストが出来るようになる。
13		アキレス腱断裂検査法	シナリオに沿ってトンプソンテストが出来るようになる。
14		総復習	各種固定と軟部組織検査法を復習し認定実技審査レベルで出来るようになる。
15		総復習	各種固定と軟部組織検査法を復習し認定実技審査レベルで出来るようになる。

科目名 【英】	柔整外傷学実習 2 Judo Therapy and Traumatology Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	脱臼の診察法および整復法、固定法の座学、実習・実技
到達目標	脱臼の診察法および整復法、固定法を理解して説明することができるようになる。また、これらができるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論・実技本・実技マニュアルを復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、柔道整復学実技編 改定2版
留意点 備 考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	卒業実技試験（脱臼整復）で評価する。
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーション 肩関節脱臼 1	肩関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。
2		肩関節脱臼 2	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。
3		肩関節脱臼 3	肩関節脱臼の診察および固定ができるようになる。
4		肩鎖関節脱臼 1	肩鎖関節脱臼の診察および整復ができるようになる。
5		肩鎖関節脱臼 2	肩鎖関節脱臼の診察および固定を理解し説明することができるようになる。
6		肘関節脱臼 1	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。
7		肘関節脱臼 2	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。
8		肘関節脱臼 3	肘関節脱臼の固定を理解し説明することができるようになる。
9		上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折の診察および整復法ができるようになる。
10		肩関節部の検査法 1	腱板損傷の診察および検査法ができるようになる。
11		肩関節部の検査法 2	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察および検査法ができるようになる。
12		総復習 1	卒業実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。
13		総復習 2	卒業実技試験の振り返り、認定実技試験に向けた診察および整復、固定ができるようになる。
14		総復習 3	認定実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。
15		総復習 4	認定実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。

科目名 【英】	柔整外傷学実習 3 Judo Therapy and Traumatology Practice 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	5
担当教員	宮越 亮典		実務者経験	2006年4月から現在 接骨院勤務 鍼灸あんま及び接骨院全般の業務 2007年4月から2011年3月 病院勤務 機能訓練、鍼灸、整復固定の業務			
学習内容	2022度版柔道整復師国家試験出題基準 必修問題基準の疾患について、診察および整復、固定を理論的に学ぶ。 柔道整復師に必要な項目を中心に、鑑別および実務を学ぶ。						
到達目標	柔道整復師師国家試験に対応できるレベルに到達する。 実務における内容の理解と問題での柔軟性を得ることを目標とする。						
準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編 総論の範囲の予習が必要。						
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験80%＋小テスト(2回)20%で評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整学実習 1	鎖骨定型的骨折 ①診察及び整復 目標：必修問題への取り組み方の理解 鎖骨定型的骨折の診察及び整復の理解ができる
2		柔整学実習 2	鎖骨定型的骨折 ②固定 目標：鎖骨定型的骨折の固定の仕方が理解ができる
3		柔整学実習 3	肩鎖関節上方脱臼 ①診察及び整復 ②固定 目標：肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復、固定の仕方が理解ができる
4		柔整学実習 4	肩関節烏口下脱臼 ①診察及び整復 ②固定 目標：肩関節烏口下脱臼の診察及び整復、固定の仕方の理解ができる
5		柔整学実習 5	上腕骨外科頸骨折 ①診察及び整復 上腕骨骨幹部三角筋附着部より遠位骨折 ②固定 目標：該当疾患の診察及び整復、固定の仕方が理解できる
6		柔整学実習 6	小テスト1 肘関節後方脱臼 ①診察及び整復 ②固定 肘内障 ①診察及び整復目標：肘関節後方脱臼、肘内障の診察及び整復の理解ができる
7		柔整学実習 7	コーレス骨折 ①診察及び整復 ②固定 目標：コーレス骨折の診察及び整復、固定の仕方の理解ができる
8		柔整学実習 8	第5中手骨頸部骨折 ②固定 肋骨骨折 ②固定 示指PIP関節背側脱臼 ②固定 目標：該当疾患の固定の仕方が理解ができる
9		柔整学実習 9	肩腱板損傷 ①診察 上腕二頭筋長頭腱損傷 ①診察 目標：該当疾患の診察が理解できる
10		柔整学実習 10	膝関節側副靱帯損傷①診察 ②固定 膝関節十字靱帯損傷 ①診察 膝関節半月板損傷①診察 目標：該当疾患の疾患または固定を理解できる
11		柔整学実習 11	大腿部打撲・肉離れ（大腿四頭筋、ハムストリング、下腿三頭筋） ①診察 目標：該当疾患の診察が理解できる
12		柔整学実習 12	小テスト2 アキレス腱断裂 ②固定 下腿骨幹部骨折 ②固定 目標：該当疾患の固定の仕方が理解できる
13		柔整学実習 13	足関節外側側副靱帯損傷①診察 ②固定 目標：足関節外側側副靱帯損傷の診察及び固定の仕方を理解できる
14		柔整学実習 14	包帯法 目標：各包帯法の走行を把握と理解できる
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整外傷学実習4 Medical Practice of Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく
到達目標	国家試験において担当範囲の80%の正答率を全員が獲得できるようにする また解剖生理を理解することで勉強の楽しさを知る

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備 考	授業では全員が傾聴できるようにし、小テストに向け自学自習を促せるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化器解剖生理	消化器の役割、大まかな働きを理解する。口腔について理解する
2		消化器解剖生理	食道から横隔膜について解剖の詳細と働きについて理解する
3		消化器解剖生理	胃・腹膜の解剖、消化吸収について理解する。また前回までの内容理解のため小テストを実施
4		消化器解剖生理	小腸の解剖について区別できるようになり消化吸収について理解する
5		消化器解剖生理	大腸の解剖を理解する。消化器全体の流れを理解する。消化器全体の復習小テストを実施
6		肝胆膵解剖生理	肝臓胆嚢膵臓の構造及び働きについて理解する
7		肝胆膵解剖生理	肝臓胆嚢膵臓の構造及び働きについて理解する
8		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する。
9		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
10		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
11		肝胆膵疾患	一般臨床医学の肝胆膵疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
12		肝胆膵疾患	一般臨床医学の肝胆膵疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
13		膠原病	膠原病について一般臨床記載内容を理解する
14		膠原病	膠原病について一般臨床記載内容を理解する
15		試験対策	前期末試験の解答解説
16		前期まとめ	前期実施した授業内容のポイント再確認

科目名 【英】	柔整外傷学実習 5 Judo Therapy and Traumatology Practice 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。
2		生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。
3		体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
4		体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
5		循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。
6		循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。
7		呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。
8		呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。
9		尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。
10		尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
11		神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
12		神経系	神経の働きの基本について復習する。
13		神経系	神経系の機能と役割について復習する。
14		神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。
15		筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造について理解を深める。

科目名 【英】	臨床実習 4 Clinical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6.7

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	骨折の診察法及び整復法、固定法を実技を通じて学ぶ。軟部組織損傷の徒手検査法のメカニズムを実技を通じて学ぶ。
到達目標	臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。 軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し適切な徒手検査を行い、疾病を鑑別することができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編・実技編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	患者の有無により各傷病のシミュレーションを行う。

成績評価	出席評価
------	------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	ガイダンス・体表解剖	前期の実習内容、必要教材や教科書の使用方法、実技と必修問題対策、軟部組織損傷検査法、卒業実技試験・認定実技試験での損傷部位の確認。	
2	体表解剖	卒業実技試験・認定実技試験での損傷部位の確認。	
3	鎖骨骨折1	坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。	
4	鎖骨骨折2	坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。。	
5	上腕骨骨幹部骨折2	ミッデルドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。	
6	上腕骨骨幹部骨折2	ミッデルドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。	
7	コーレス骨折1	（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。	
8	コーレス骨折1	（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。	
9	鎖骨骨折3	復習：坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。	
10	上腕骨骨幹部骨折3	復習：ミッデルドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。	
11	コーレス骨折3	復習：（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。	
12	コーレス骨折1	復習：（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。	
13	軟部組織損傷の徒手検査法2	復習：①側副靱帯損傷 膝内反外反動揺テスト、牽引アブレイトテスト、グラビティテスト ②十字靱帯損傷 引出/押込テスト、ラックマンテスト、サグサイン、N-テスト、グラビティテスト ③半月板損傷 マックマレーテスト、圧迫アブレイトテスト、ワトソンジョーンズテスト	
14	復習	卒業実技試験の実技の振り返り	

15	復習	認定実技審査での整復法・固定法・軟部組織損傷徒手検査法の実施時の注意点
----	----	-------------------------------------

科目名 【英】	柔整医学演習 1 Medical Practice of Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年から整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から運動学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	運動学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	運動学 副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験90%、小テスト10%を加味する
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		運動学概論	運動学の目的を理解し体の基本的構造を理解できる
2		運動学概論	運動の表し方を把握し説明を加え自ら説明する事が出来る
3		身体運動と力学	身体運動と力学(ベクトル、動体に働く力、てこの力 滑車 運動の法則)を理解し説明できる
4		運動の法則	運動の法則 質量 重量 力の単位を理解し説明する事が出来る
5		仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーを理解し仕事 仕事率 力学的エネルギーを説明する事が出来る
6		運動器の構造と機能	骨の構造 骨の構成要素 骨の発生と成長を理解し説明する事が出来る
7		関節の構造	骨とビタミン ホルモン 関節の構造 関節の分類 骨格筋の構造を理解し説明する事が出来る
8		骨格筋の構造	筋収縮 運動単位 神経筋接合部を理解し説明する事が出来る
9		神経	神経細胞 神経線維 神経シナプス 自律神経を理解し説明する事が出来る
10		神経	中枢神経 脊髄 脳 錐体路と錐体外路を理解し説明する事が出来る
11		感覚	感覚と知性 感覚の種類 運動感覚 筋紡錘を理解し説明できる
12		反射	反射と随意運動 反射弓 反射の種類 反射中枢 連合運動を共同運動について説明する事が出来る
13		姿勢	姿勢重心立位姿勢安定性 抗重力筋 歩行周期 分析 歩行エネルギーについて説明する事が出来る
14		運動発達	神経組織の成熟 乳幼児の運動発達 全身運動 歩行運動について説明できる
15		試験解説	試験解説を行い、自分の弱点を見つけ出し克服する

科目名 【英】	柔整医学演習 2 Medical Practice of Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。 柔整外傷学実習 5 の授業内容を補足してより実践的な理解の定着を図る。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。
2		生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。
3		体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
4		体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
5		循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。
6		循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。
7		呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。
8		呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。
9		尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。
10		尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
11		神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
12		神経系	神経の働きの基本について復習する。
13		神経系	神経系の機能と役割について復習する。
14		神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。
15		筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造について理解を深める。

科目名 【英】	柔整医学演習 3 Medical practice of judo therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成 1 4 年 4 月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	整形外科学を中心として柔道整復学も含み国家試験に必要な知識を学習する
到達目標	国家試験に向けた知識の習得

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	整形外科学 柔道整復学理論
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 1 0 0 %
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整医学演習 1	オリエンテーション(心構えや勉強への取り組みを理解する)
2		柔整医学演習 2	整形外科学領域における骨端症 先天性骨系統疾患についての基礎知識を学ぶ
3		柔整医学演習 3	整形外科学領域における先天性骨系統疾患 全身性神経筋疾患の基礎知識を学ぶ
4		柔整医学演習 4	整形外科学領域における全身性神経筋疾患 骨腫瘍についての基礎知識を学ぶ
5		柔整医学演習 5	整形外科学領域における骨腫瘍についての基礎知識を学ぶ
6		柔整医学演習 6	整形外科学領域における絞扼性神経障害、末梢神経障害についての基礎知識を学ぶ
7		柔整医学演習 7	整形外科学領域における非感染性関節疾患 関節リウマチ リウマチ類似疾患についての基礎知識を学ぶ
8		柔整医学演習 8	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
9		柔整医学演習 9	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
10		柔整医学演習 1 0	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
11		柔整医学演習 1 1	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
12		柔整医学演習 1 2	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
13		柔整医学演習 1 3	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
14		柔整医学演習 1 4	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
15		柔整医学演習 1 5	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する

科目名 【英】	柔整医学演習 4 Medical Practice of judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ為の解剖生理学を学ぶ
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC 配布資料 教科書【 解剖学 生理学 病理学（南江堂）】
留意点 備 考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		代謝疾患	糖尿病について説明が出来るようになる
2		代謝疾患	糖尿病について説明が出来るようになる
3		神経系疾患 1	脳卒中について説明することができる
4		神経系疾患 1	脳卒中について説明することができる
5		神経系疾患 2	パーキンソン病について説明することができる
6		神経系疾患 2	パーキンソン病について説明することができる
7		神経系疾患 3	伝導路疾患について説明することができる
8		神経系疾患 3	伝導路疾患について説明することができる
9		神経系疾患 4	筋萎縮性側索硬化症について説明することができる
10		神経系疾患 4	筋萎縮性側索硬化症について説明することができる
11		神経系疾患 5	脳神経が障害される疾患について説明できる
12		神経系疾患 5	脳神経が障害される疾患について説明できる
13		筋系疾患 1	進行性筋ジストロフィーについて説明することができる
14		筋系疾患 2	重傷筋無力症について説明することができる
15		総まとめ	振り返りを行い、問題演習で理解しながら解けるようにする

科目名 【英】	柔整医学演習 5 Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	病態細胞を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学との関連性を把握する
使用教材	病理学 解剖学 生理学
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験90% 小テスト10%程度を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		病理学とは	【方法、研究試験による分類診察方法】病理学に対する基本的な知識と方法に説明が出来る
2		疾病の一般	【疾病の意義と分類疾病の分類病変と症候】疾病の分類や病気の状態を説明できる
3		細胞障害	【退行性病変、代謝障害、萎縮、変性、壊死】細胞の異常や分類を説明できる
4		代謝障害と疾病	【尿酸代謝異常カルシウム代謝異常、糖尿病、老化、壊死】代謝異常、糖尿病、黄疸などの説明が出来る
5		アポトーシスと死	【死の定義、死の判定、死後の変化】アポトーシスと死の違いを説明できる
6		循環障害1	【血液の循環障害、充血、うっ血虚血、出血血栓症】血液の循環障害やうっ血、虚血について説明できる
7		循環障害2	【塞栓症、梗塞、浮腫、脱水症】梗塞の種類浮腫の成因脱水症の説明が出来る
8		循環障害3	【高血圧症、高血圧症の分類】高血圧の病態生理を説明できる
9		進行性病変	【肥大、過形成、再生、化生】肥大過形成再生化生の分類について説明できるレベル
10		炎症	【炎症の分類炎症の原因炎症の形態による分類】炎症の病理解剖と原因分類を説明できる
11		免疫異常アレルギー1	【免疫の仕組み、免疫不全、後天性免疫不全症候群】免疫の仕組みと抗原、抗体、先天性後天性の免疫不全の説明が出来る
12		免疫異常アレルギー2	【自己免疫疾患、アレルギー】自己免疫疾患とアレルギー反応の分類、病態生理について説明できる
13		腫瘍	【腫瘍の定義、腫瘍細胞、腫瘍の組織構造生体への影響、発がんの原因腫瘍の分類】腫瘍について病態生理、解剖学的診断、分類の説明が出来る
14		先天性疾患	【先天性異常、遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因、奇形成立の時期】先天性疾患の説明染色体異常の説明が出来る
15		病因	【病因の一般、内因、外因、遺伝、ストレス】病因の外因、内因について説明が出来る

科目名 【英】	社会保障論 Social Security			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	丹生 利博	実務者経験	1985年10月から1993年3月まで、厚生省社会保険庁の淀川と吹田の社会保険事務所で事務官として勤務する。1997年5月から現在まで、にぶ整骨院で、鍼灸、柔道整復の施術をおこなう。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師として、開業したときに療養費の受領委任の理解が必要になることから、社会保障論の知識を身につけることを目的とします。
到達目標	日本の社会保障制度の構造を理解し、柔道整復師として関わる保険制度と施術料金の算定ができるようにする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	テキスト『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』
留意点 備 考	

成績評価	最終日に行う記述試験 100%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	オリエンテーション、社会保障制度	P.1～4	社会保障制度の機能と構造に関して説明ができる
2	社会保険制度とは	P. 5～7	社会保険制度の機能と構造に関して説明ができる
3	医療保険制度とは	P. 7～9	医療保険の目的と現状に関して説明ができる
4	保険診療の仕組みとは	P. 10～14	保険診療の制度の仕組みと現状に関して説明ができる
5	診療報酬制度とは	P. 14～17	診療報酬制度の構造に関して説明ができる
6	柔道整復師業務における療養費とは	P. 19～25	柔道整復療養費の受領委任に関して説明ができる
7	職業倫理とは	P. 49～55	医療従事者の職業倫理に関して説明ができる
8	柔道整復師の社会的責任と対応とは	P. 56～65	医療現場での問題と個人情報保護に関して説明ができる
9			

科目名 【英】	柔整応用鑑別学 Judo Therapy Differential Diagnosis			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	高橋 秀郎・水谷 遼香	実務者経験	高橋) 医療法人 淳良会 関目病院にて脱臼、骨折の整復固定手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月 水谷) 2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------------	-------	---

学習内容	柔道整復術が適用される疾患の鑑別
到達目標	医用画像から疾患を鑑別できるようになる。 柔道整復術の適否を判断し、患者にとって最適な治療環境を選択できるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『施術の適応と医用画像の理解』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		医用画像1	放射線の概要やX線像の一般撮影法を理解し、説明することができるようになる。
2		医用画像2	画像のデジタル化、CT画像の特性を理解し、説明することができるようになる。
3		医用画像3	MRIの見方を理解し、説明することができるようになる。
4		医用画像4	超音波画像装置について理解し、説明することができるようになる。
5		医用画像5	X線画像などを読影することができるようになる。
6		医用画像6	X線画像などを読影することができるようになる。
7		医用画像7	X線画像などを読影することができるようになる。
8		医用画像8	X線画像などを読影することができるようになる。
9		柔道整復術の適否	施術の適応判断の必要性について理解し、説明することができるようになる。
10		類似疾患1	損傷に類似した症状を示す内臓疾患を柔道整復術の適応症であるか峻別できるようになる。
11		類似疾患2	腰痛を訴える患者の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
12		血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
13		脱臼骨折・外出血を伴う損傷	脱臼骨折が疑われる場合・外出血がある場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
14		意識障害・脊髄症状のある損傷	意識障害や脊髄症状がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
15		呼吸運動障害を伴う損傷	異常呼吸がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。

科目名 【英】	柔整医学演習 6 Medical Practice of Judo Therapy 6			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学や病理学につながる解剖生理を学ぶことにより柔道整復師として臨床に応用できる知識を身に着ける

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学や外科学との関連性を把握する
使用教材	解剖学 生理学
留意点 備 考	パソコン マウス 必要

成績評価	試験90% 小テスト10%程度を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		代謝の仕組み1	代謝の仕組みと栄養学を理解しそれについて説明できる
2		代謝の仕組み2	代謝の仕組みと栄養学を理解しそれについて説明できる
3		呼吸器の構造1	呼吸器の構造と理解ができそれについて説明が出来る
4		呼吸器の構造2	呼吸器の構造と理解ができそれについて説明が出来る
5		脳の構造1	脳の構造と理解神経系の基礎が分かっておりそれについて説明できる
6		脳の構造2	脳の構造と理解神経系の基礎が分かっておりそれについて説明できる
7		髄膜と脳脊髄液	髄膜と脳脊髄液を理解しそれについて説明できる
8		終脳、大脳半球	終脳、大脳半球を理解しそれについて説明できる
9		間脳	間脳について理解しそれについて説明できる
10		脳幹	中脳、橋、延髄について理解しそれについて説明できる
11		小脳	小脳の構造と機能について理解しそれについて説明できる
12		脊髄1	脊髄の法則を理解しそれについて説明できる
13		脊髄2	脊髄の内部構造を理解しそれについて説明できる
14		中枢神経系	中枢神経系の結果脳構造を理解しそれについて説明できる
15		伝導路	伝導路の反射について理解しそれについて説明できる

科目名 【英】	柔整医学演習 7 Medical Practice of Judo Therapy 7			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。 柔整医学演習14の授業内容を補足してより実践的な理解の定着を図る。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
2		筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
3		感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
4		感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
5		感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
6		感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
7		内分泌	内分泌系の機能と構造について理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
8		生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
9		生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
10		骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
11		消化吸收	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
12		消化吸收	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
13		代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
14		成長・競技 の生理的変化	成長・競技に伴う身体の生理的変化について理解を深める。
15		総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名 【英】	柔整医学演習 8 Medical Practice of Judo Therapy 8			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ為の解剖生理学を学ぶ
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC 配布資料 教科書【 解剖学 生理学 病理学（南江堂）】
留意点 備 考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		循環器疾患 1	虚血性心疾患について説明することができる
2		循環器疾患 1	虚血性心疾患について説明することができる
3		循環器疾患 2	心臓弁膜症について説明することができる
4		循環器疾患 2	心臓弁膜症について説明することができる
5		循環器疾患 3	先天性心疾患について説明することができる
6		循環器疾患 3	先天性心疾患について説明することができる
7		呼吸器疾患 1	慢性閉塞性肺疾患について説明することができる
8		呼吸器疾患 1	慢性閉塞性肺疾患について説明することができる
9		呼吸器疾患 2	肺炎、肺癌について説明することができる
10		呼吸器疾患 2	肺炎、肺癌について説明することができる
11		血液疾患 1	貧血疾患について説明することができる
12		血液疾患 1	貧血疾患について説明することができる
13		血液疾患 2	汎血球減少症について説明することができる
14		血液疾患 2	汎血球減少症について説明することができる
15		総まとめ	全ての総ざらいを行い国家試験に対応できる説明力をつける

科目名 【英】	柔整医学演習 9 Medical Practice of Judo Therapy 9			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	疾病の機能解剖や発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	疾患の特徴を説明し、柔道整復師国家試験の問題解説ができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	認定実技審査	骨折（鎖骨骨折など）の整復法・固定法
2	認定実技審査	脱臼（肩関節脱臼など）の整復法・固定法
3	認定実技審査	軟部組織損傷（肩腱板損傷など）の徒手検査法
4	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
5	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
6	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
7	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
8	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
9	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
10	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
11	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
12	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
13	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
14	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
15	定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。

科目名 【英】	柔整医学演習 10 Medical Practice of Judo Therapy 10			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	--

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	柔道整復学理論編第7版、柔道整復学実技編第2版、解剖学第2版、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		股関節部の軟部組織損傷	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股の特徴や病態が説明をできるようになる。
2		股関節部の軟部組織損傷	ペルテス病、大腿骨頭すべり症、単純性股関節炎の特徴や病態が説明をできるようになる。
3		股関節部の軟部組織損傷	大腿骨頭壊死、変形性股関節症、股関節拘縮の特徴や病態が説明をできるようになる。
4		下肢の神経絞扼障害	梨状筋症候群、ハンター管症候群の特徴や病態が説明をできるようになる。
5		下肢の神経絞扼障害	総腓骨神経絞扼障害の特徴や病態が説明をできるようになる。
6		下肢の神経絞扼障害	足根管症候群、モートン病の特徴や病態が説明をできるようになる。
7		大腿部の軟部組織損傷	大腿部打撲、大腿部肉離れの特徴や病態が説明をできるようになる。
8		膝関節部の軟部組織損傷	ジャンパー膝、ブラント病、オスグッドシュラッター病の特徴や病態が説明をできるようになる。
9		膝関節部の軟部組織損傷	分裂膝蓋骨、膝蓋軟骨軟化症、タナ障害の特徴や病態が説明をできるようになる。
10		膝関節部の軟部組織損傷	腸脛靭帯炎、鵠足炎の特徴や病態が説明をできるようになる。
11		下腿の軟部組織損傷	コンパートメント症候群、シンスプリントの特徴や病態が説明をできるようになる。
12		足部の軟部組織損傷	足根洞症候群、腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨腫の特徴や病態が説明をできるようになる。
13		足部の軟部組織損傷	有痛性三角骨障害、有痛性外脛骨障害、足底腱膜炎、の特徴や病態が説明をできるようになる。
14		足部の軟部組織損傷	第1ケーラー病、フライバーグ病、セーバー病、扁平足、外反母趾、強剛母趾の特徴や病態が説明をできるようになる。
15		総復習	試験解説、今までの内容についての補填

科目名 【英】	柔整医学演習 1 2 Medical Practice of Judo Therapy 12			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年から整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から、外科学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	外科学 副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験 90% 小テスト 10%を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		外科学とは	外科学の歴史を学び現代との相違点を理解し説明を行う事が出来る
2		損傷	損傷の分類 損傷の治癒 交通事故外傷 特殊な損傷 熱傷を理解し説明する事が出来る
3		損傷	救急処置 熱傷の合併症を理解 気道熱傷 その他の損傷を理解し 説明する事が出来る
4		炎症と外科感染症	炎症と外科感染症 感染発症のメカニズム 静脈瘤 梅毒 真菌症 動物の噛み傷を理解し説明できる
5		腫瘍	腫瘍 概念 発がん 分類良性 悪性 上皮性 非上皮性癌を理解し説明する事が出来る
6		ショック	心臓性 血液分布異常性 閉塞性ショック 血圧 対処法を理解し説明できる
7		輸血と輸液	輸血の適用 一般輸血 高カロリー輸液について理解し説明できる
8		消毒と滅菌	主な消毒薬 皮膚消毒 機械の消毒 エチレンガス滅菌について説明できる
9		手術	手術の分類 各種手術法 皮膚切開 止血 結紮について理解し説明できる
10		麻酔	概要 全身麻酔 局所麻酔 気管挿管 神経ブロック 緩和ケアについて理解説明できる
11		移植と免疫	同系移植 同種移植 臓器の保存について理解し説明できる
12		出血と止血	出血の分類 出血血管の分類 原因について理解し説明できる
13		出血と止血	鼻出血 喀血 吐血 腹腔内出血 器械的止血 物理的止血 化学的止血について理解し説明できる
14		救急処置	新派蘇生法 心臓マッサージ 人工呼吸 AEDNIについて理解し説明できる
15		テストの解説	テストの解説をし相互理解を深め 国家試験合格に向けて理解する

科目名 【英】	柔整医学演習 1 3 Medical Practice of Judo Therapy 13			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	姫 将司・水谷 遼香	実務者経験	姫) 2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る 水谷) 鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、 機能訓練指導員として従事。
------	------------	-------	--

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。 柔道整復師において必要なリハビリテーション医学ならびに機能訓練の知識を修得する。
到達目標	国家試験レベルの問題を6割正解できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の復習をおこなうことを勧める。
使用教材	P C / 教科書『リハビリテーション医学』『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	後期末試験（筆記 100%）で評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	リハ医学の概念 1	リハビリテーション医学概論【概念・障害レベル】 障害分類について説明できる。	
2	リハ医学の概念 2	リハビリテーション医学概論【障害レベル・アプローチ・チーム医療】 障害分類に対応するアプローチについて説明できる。	
3	基礎医学	リハビリテーションに関する基礎医学【障害学・神経解剖・神経生理・神経損傷】 末梢神経麻痺・中枢神経麻痺の違いについて説明できる。	
4	評価と診断	評価と診断【ADL】 ADLと評価法について説明できる。	
5	治療学 1	治療【理学療法・作業療法】 理学療法と作業療法の違いについて説明できる。	
6	治療学 2	治療【装具療法】 補装具の名称と適応について説明できる。	
7	リハビリの実際 1	各論【脳卒中①】 脳卒中の病態について説明できる。	
8	リハビリの実際 2	各論【脳卒中②】 脳卒中のリハビリテーションについて説明できる。	
9	発達と老化の理解	サルコペニアとフレイルの違い、老化・高齢者特有疾患について理解し、説明することが出来るようになる。	
10	認知症の理解	認知症の原因・種類・症状・対応などについて理解し、説明することが出来るようになる。	
11	ロコモティブシンドローム	原因・ロコモテスト方法・評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。	
12	介護保険制度	介護保険・要介護度・各種介護サービスについて理解し、説明することが出来るようになる。	
13	高齢者介護と ICF	高齢者介護における目標、ICF、機能訓練実施計画書について理解し、説明することが出来るようになる。	
14	機能訓練指導 I	機能訓練指導員の定義、機能訓練の流れ、機能訓練身体能力測定方法と評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。	
15	機能訓練指導 II	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。	

科目名 【英】	柔整医学演習 1 4 Medical Practice of Judo Therapy 14			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
2		筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
3		感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
4		感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
5		感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
6		感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
7		内分泌	内分泌系の機能と構造について理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
8		生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
9		生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
10		骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
11		消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
12		消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
13		代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
14		成長・競技の生理的変化	成長・競技に伴う身体の生理的変化について理解を深める。
15		総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名 【英】	柔整医学演習 5 Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	国家試験に必要な知識を取得し、また卒後に役立つ知識を幅広く取得する。
到達目標	国家試験の出題傾向を知り、80%の問題を解くことができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）、一般臨床医学改定3版（医歯薬出版） 配布プリント
留意点 備 考	授業終了後に講義内容の問題を網羅しておく。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		泌尿器解剖分野 1	泌尿器の構造仕組みを理解する。
2		泌尿器解剖分野 2	泌尿器全体像を把握し理解する。
3		泌尿器生理分野 1	泌尿器のはやらきを理解する。
4		泌尿器生理分野 2	泌尿器全体像を把握し理解する。
5		泌尿器疾患 1	腎疾患における特徴を知り理解する。
6		泌尿器疾患 2	腎臓実質における疾患を理解する。
7		泌尿器疾患 3	腎以外の泌尿器疾患を理解する。
8		内分泌総論	出題数の多い内分泌について総論を理解する。
9		内分泌解剖生理 1	下垂体のホルモンを理解する。
10		内分泌解剖生理 2	頸部のホルモンを理解する。
11		内分泌解剖生理 3	胸腹部のホルモンを理解する。
12		内分泌解剖生理 4	生殖器ホルモンを理解する。
13		内分泌疾患 1	解剖生理を元にした内分泌の疾患を理解する。
14		内分泌疾患 2	頭部から胸部にかけた内分泌疾患を理解する。
15		内分泌疾患 3	腹部以降の内分泌疾患を理解する。

科目名 【英】	柔整医学演習 16 Medical Practice of Judo Therapy 16			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	疾病の機能解剖や発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	疾患の特徴を説明し、柔道整復師国家試験の問題解説ができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		認定実技審査	骨折（鎖骨骨折など）の整復法・固定法
2		認定実技審査	脱臼（肩関節脱臼など）の整復法・固定法
3		認定実技審査	軟部組織損傷（肩腱板損傷など）の徒手検査法
4		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
5		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
6		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
7		柔道 必修対策	日本伝講道館柔道（嘉納治五郎・柔道の目的）、礼法（立礼・坐礼）について
8		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
9		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
10		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
11		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
12		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
13		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
14		国家試験対策	包帯学について理解し、説明できる
15		国家試験対策	包帯学について理解し、説明できる

科目名 【英】	柔整医学演習 17 Medical Practice of Judo Thrapy 17			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	服部 博幸	実務者経験	1992年より病院並びに学校にて、鍼灸および柔道整復施術を行う。 2016年より通所介護事業も立ち上げ、従事している。
------	-------	-------	--

学習内容	上肢および下肢の骨折及び脱臼について部位ごとに学ぶ。
到達目標	臨床の場で使えるよう受傷原因から総合的に外傷を判断できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとりに来てください。

成績評価	筆記試験結果（100％）を元に評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復学演習 1	【手・手指部の骨折・脱臼1】 手根骨骨折と脱臼について、理解を深める。
2		柔道整復学演習 2	【手・手指部の骨折・脱臼2】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。
3		柔道整復学演習 3	【手・手指部の骨折・脱臼3】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。
4		柔道整復学演習 4	【手・手指部の骨折・脱臼4】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
5		柔道整復学演習 5	【手・手指部の骨折・脱臼5】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
6		柔道整復学演習 6	【手・手指部の骨折・脱臼6】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
7		柔道整復学演習 7	【上腕骨遠位端部骨折】 内側上顆骨折・外顆骨折・顆上骨折について理解を深める。
8		柔道整復学演習 8	【前腕骨近位端骨折・脱臼1】 橈骨頭・頸部骨折、肘頭骨折、肘内障について理解を深める。
9		柔道整復学演習 9	【前腕骨近位端骨折・脱臼2】 肘関節脱臼について理解を深める。
10		柔道整復学演習10	【前腕骨骨幹部の骨折1】 橈骨単独・尺骨単独・両骨骨折について理解を深める。
11		柔道整復学演習11	【前腕骨骨幹部の骨折2】 モンテギア・ガレアジ骨折について理解を深める。
12		柔道整復学演習12	【前腕骨遠位端部骨折および手関節周辺部の脱臼】 前腕骨遠位端骨折・手関節周辺部の脱臼について理解を深める
13		柔道整復学演習13	【試験解説】
14		柔道整復学演習14	【鎖骨骨折・脱臼、肩甲骨骨折】 鎖骨骨折・脱臼、肩甲骨骨折について理解を深める。
15		柔道整復学演習15	【練習問題とそのフィードバック】 代表的な過去の国家試験問題を解き、現在の知識レベルを確認する。

科目名 【英】	柔整医学演習 18 Medical Practice of Judo Therapy 18			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	柔道整復師の問診、視診、打診、聴診など疾病を鑑別するにあたり、必要なスキルを学ぶ。
到達目標	国家試験の問題がスラスラ解けるようになる。

準備学習 時間外学習	講義に関する内容の教科書の読了
使用教材	一般臨床医学、国家試験過去問題
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		診察概論 感覚検査	表在感覚と深部感覚について説明できるようになる。
2		診察概論 感覚検査	特殊感覚について説明できるようになる。
3		診察概論 感覚検査	反射について説明できるようになる
4		診察概論 視診	姿勢について説明が出来るようになる。
5		診察概論 視診	意識状態について説明が出来るようになる。
6		診察概論 視診	不随意運動・異常運動について説明が出来るようになる。
7		診察概論 視診	皮膚の異常について説明が出来るようになる。
8		診察概論 視診	顔面部・頸部の異常を説明出来るようになる。
9		診察概論 視診	胸腹部の異常を説明出来るようになる。
10		診察概論 視診	上肢の異常を説明出来るようになる。
11		診察概論 視診	下肢の異常を説明出来るようになる。
12		診察概論 打診	正常打診と異常打診について説明出来るようになる。
13		診察概論 聴診	正常聴診と異常について説明出来るようになる。
14		診察概論 触診	筋触診と圧痛点を説明できるようになる。
15		診察概論 触診	リンパ節の腫脹とその疾患について説明できるようになる。

科目名 【英】	柔整医学演習 19 Medical Practice of Judo Therapy 19			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	疾病の機能解剖や発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	疾患の特徴を説明し、柔道整復師国家試験の問題解説ができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	認定実技審査	骨折（鎖骨骨折など）の整復法・固定法
2	認定実技審査	脱臼（肩関節脱臼など）の整復法・固定法
3	認定実技審査	軟部組織損傷（肩腱板損傷など）の徒手検査法
4	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
5	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
6	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
7	症例問題解説	総合判定試験の低正答率（正答50%以下）の問題について解説する。
8	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
9	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
10	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
11	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
12	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
13	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
14	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
15	定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。

科目名 【英】	柔整医学演習 20 Medical Practice of Judo Therapy 20			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月(堀口)
------	-------	-------	--------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行う。
到達目標	卒後に役立つ知識、技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	配布したプリントを復習する、国家試験過去問を解いておく
使用教材	柔道整復学理論編、実技編、整形外科学
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		骨盤部の損傷	骨盤骨折について理解し説明することができる。
2		股関節部の損傷 1	大腿骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折について理解し説明することができる。
3		股関節部の損傷 2	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折、股関節脱臼 1 について理解し説明することができる。
4		股関節部の損傷 3	股関節脱臼 2 について理解し説明することができる。
5		大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。
6		膝関節部の損傷 1	大腿骨顆上骨折、大腿骨骨端線離開、大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部の裂離骨折について理解し説明することができる。
7		膝関節部の損傷 2	脛骨顆部骨折、脛骨顆間隆起骨折について理解し説明することができる。
8		膝関節部の損傷 3	脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折について理解し説明することができる。
9		膝関節部の損傷 4	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼について理解し説明することができる。
10		下腿部の損傷 1	下腿近位端部骨折、下腿骨幹部骨折について理解し説明することができる。
11		下腿部の損傷 2	下腿遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折について理解し説明することができる。
12		足関節部の損傷	足根骨骨折、足関節の脱臼、中足骨骨折について理解し説明することができる。
13		足・趾部の骨折 鎖骨部の損傷	趾骨骨折、鎖骨骨折、鎖骨の脱臼について理解し説明することができる。
14		肩関節部の損傷 1	上腕骨近位端部骨折について理解し説明することができる。
15		肩関節部の損傷 2	上腕骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。

科目名 【英】	柔整医学演習 2 1 Medical Practice of Judo Therapy 21			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	国家試験の必修問題に出題される実技範囲について学ぶ
到達目標	国家試験の必修問題を解くことができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』『柔道整復学 実技編』 配布プリント
留意点 備 考	柔道整復学理論編と実技編の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		定型的鎖骨骨折①	定型的鎖骨骨折について説明することができる
2		定型的鎖骨骨折②	定型的鎖骨骨折について説明することができる
3		上腕骨外科頸外転型骨折①	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
4		上腕骨外科頸外転型骨折②	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
5		上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折について説明することができる
6		コーレス骨折①	コーレス骨折について説明することができる
7		コーレス骨折②	コーレス骨折について説明することができる
8		第5中手骨頸部骨折①	第5中手骨頸部骨折について説明することができる
9		第5中手骨頸部骨折②	第5中手骨頸部骨折について説明することができる
10		肋骨骨折①	肋骨骨折について説明することができる
11		肋骨骨折②	肋骨骨折について説明することができる
12		肩鎖関節上方脱臼①	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
13		肩鎖関節上方脱臼②	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
14		肩関節烏口下脱臼①	肩関節烏口下脱臼について説明することができる
15		肩関節烏口下脱臼②	肩関節烏口下脱臼について説明することができる

科目名 【英】	柔整医学演習 2 2 Medical Practice of Judo Therapy 22			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	井上 亜久吏・堀口 晃一	実務者経験	井上) 2015/4～2020/3接骨院にて勤務 堀口) 整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	--------------	-------	--

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	別問題を用いて復習を徹底する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、配布プリント 『衛生学』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		神経系①	解剖学的神経系基礎に関する問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
2		神経系②	神経生理学基礎における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
3		神経系③	中枢神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
4		神経系④	中枢神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
5		神経系⑤	反射について問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
6		神経系⑥	神経性調節について問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
7		神経系⑦	脊髄神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
8		衛生学	健康の概念・疾病予防と健康管理の国家試験を理解できるようにする。
9		衛生学	感染症の予防の国家試験を理解できるようにする。
10		衛生学	消毒の国家試験を理解できるようにする。
11		衛生学	環境衛生の骨化試験を理解できるようにする。
12		衛生学	生活環境・母子保健の国家試験を理解できるようにする。
13		衛生学	学校保健・産業保健の国家試験を理解できるようにする。
14		衛生学	成人・高齢者保険、精神保健の国家試験を理解できるようにする。
15		衛生学	疫学・衛生行政・地域保健の国家試験を理解できるようにする。